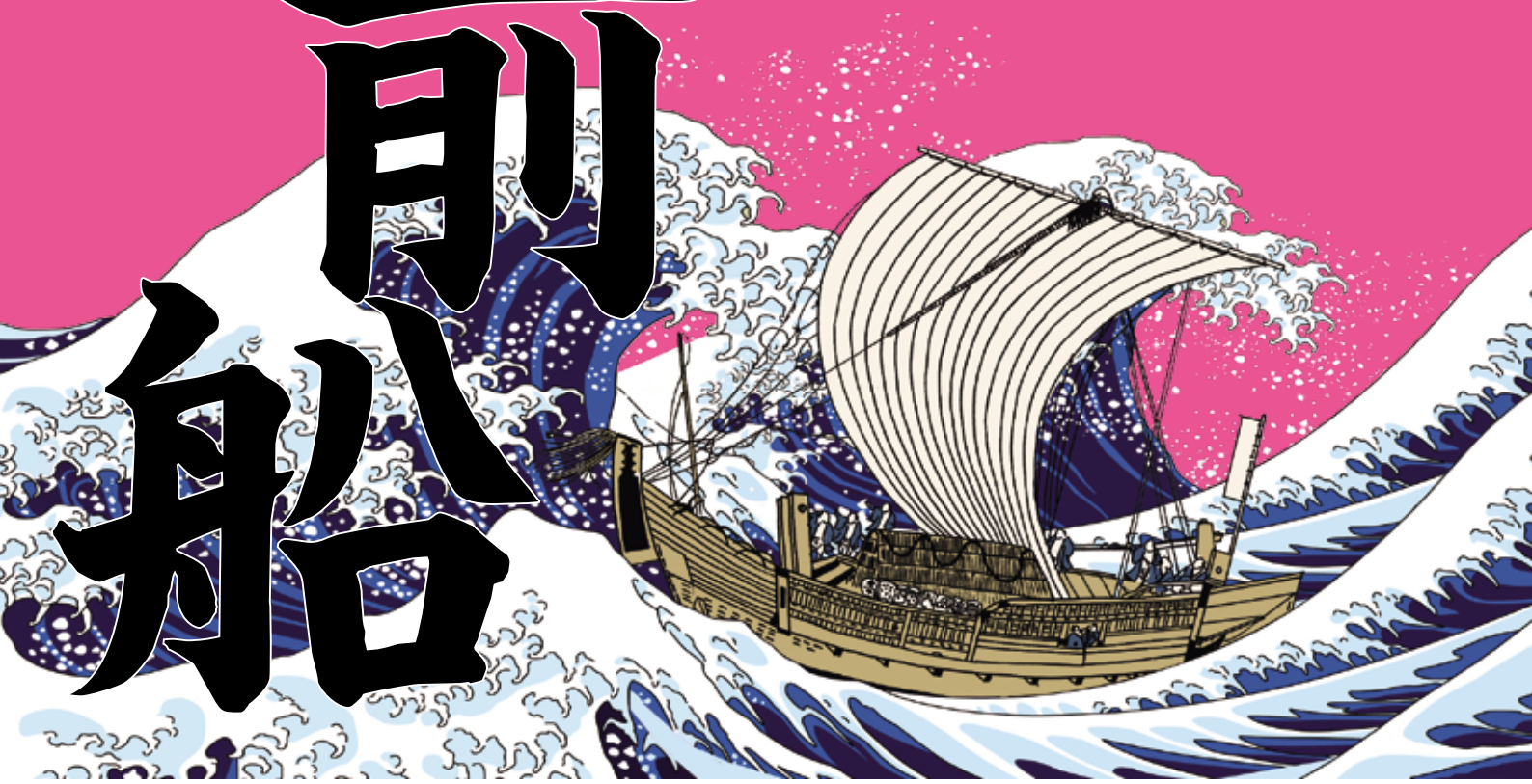
北前船

「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
北前船寄港地・船主集落」の物語



JAPAN HERITAGE

KITAMAE-BUNE

Kitamae-bune

北前船寄港地・船主集落

北海道小樽市 / 北海道石狩市 / 北海道函館市 / 北海道松前町
青森県野辺地町 / 青森県鰺ヶ沢町 / 青森県深浦町 / 秋田県能代市
秋田県男鹿市 / 秋田県秋田市 / 秋田県由利本荘市
秋田県にかほ市 / 山形県酒田市 / 新潟県新潟市 / 新潟県佐渡市
新潟県長岡市 / 新潟県上越市 / 富山県富山市 / 富山県高岡市
石川県輪島市 / 石川県小松市 / 石川県加賀市 / 福井県坂井市
福井県南越前町 / 福井県敦賀市 / 福井県小浜市
京都府宮津市 / 大阪府大阪市 / 兵庫県神戸市
兵庫県高砂市 / 兵庫県新温泉町 / 兵庫県赤穂市
兵庫県洲本市 / 鳥取県鳥取市 / 島根県浜田市
岡山県倉敷市 / 広島県尾道市 / 広島県呉市

38

北前船 38

Kitamae-bune

北前船寄港地・船主集落

4 北前船とは

6 北前船の歴史

8 船乗りの生活と商品

10 北前船の商品と利益

12 北海道と北前船
北海道石狩市　北海道小樽市　北海道松前町　北海道函館市

18 風待ち港でも商品売買
青森県鰺ヶ沢町　青森県深浦町　秋田県男鹿市
秋田県にかほ市　兵庫県新温泉町

26 船主を輩出した集落
新潟県佐渡市　石川県輪島市　石川県加賀市　福井県南越前町

32 北前船が寄りたくなる港
青森県野辺地町　秋田県能代市　秋田県秋田市
秋田県由利本荘市　山形県酒田市　新潟県新潟市
新潟県長岡市　新潟県上越市　富山県富山市　富山県高岡市
石川県小松市　福井県坂井市　福井県敦賀市　福井県小浜市
京都府宮津市　鳥取県鳥取市　島根県浜田市

52 巨大市場だった瀬戸内海
広島県呉市　広島県尾道市　岡山県倉敷市　兵庫県赤穂市
兵庫県高砂市　兵庫県洲本市　兵庫県神戸市　大阪府大阪市

62 構成文化財一覧

66 一般公開されている北前船関連施設

JAPAN HERITAGE

「日本遺産」（Japan Heritage）は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーとして文化庁が認定するものです。

一攫千金の夢物語「北前船」

江戸時代の中ごろから明治30年代にかけて、大量の荷物を積んで日本海を往来していた多くの船がありました。北前船と呼ばれる船です。「北前船とは何か」という定義には、研究者によってこまかい違いがありますが、共通項でくくってみると①大阪と北海道（江戸時代の地名では大坂と蝦夷地）を日本海回りで往復していた、②寄港地で積荷を売り、新たな仕入れもした、③帆船――と言えるようです。

江戸時代、荷物を積んで海を走る船を「回船」と言いました。全国にはさまざまな航路があり、特定の荷物を専門的に運ぶ回船もありました。

その中で最も船の数が多く、ひんぱんに航海していたのは、大阪から江戸へ向かった菱垣（ひがき）回船や樽（たる）回船です。何でも運ぶ菱垣回船がまず登場し、後に酒樽を運ぶことから始まった樽回船が現れます。冬は荒海となった日本海に対し、太平洋を走る菱垣回船や樽回船は一年中、何度も往復しました。

このほか、瀬戸内の塩を江戸に運んだ塩回船や、長崎で輸入される絹糸を大阪へ運び、帰りに昆布や干したアワビなど中国への輸出品を運んだ糸荷回船もあります。特に塩は、江戸の近辺（東京湾沿岸）での生産量は微々たるものでしたから、江戸から関東地方各地へも運ばれました。

徳川幕府のおひざ元である江戸は百万人もの人口があり、当時世界最大の都市だったのですが、衣類をはじめ生活必需品を十分には生産できませんでした。だから関西から大量の物資を運んだのです。しかし、帰り船に積む荷物はありません。寄港地も少なく、菱垣回船も樽回船も江戸までの片道運賃で稼ぐしかありませんでした。

これに対して北前船は、寄港地で安いと思う品物があれば買い、船の荷物で高く売れる物があればそこで売るという「商売」をしながら北海道へ往復していた船なのです。これを「買積（かいづみ）船」と言い、ほかの航路の回船との最も違う大きな特徴です。

北前船には「千石船」というイメージもあります。でも、これは「米を1千石積むことができる大きさ」という意味です。重さで換算すると、１５０トンの米です。実際には5百石積み程度の中型船も多かったのですが、北前船史上最大の船は、２４００石積みもありました。

船の形としては「ベザイ船」ばかりです。漢字では「弁才」とか「弁財」と書きます。白く、巨大な帆1枚で帆走する和船を想像してもらえばいいでしょう。

弁才船は、瀬戸内海で発達した船型です。江戸中期までは伊勢の伊勢船や、東北・北陸地方の北国船、羽賀瀬船など、地方ごとに特徴的な船型がありました。北前船が弁才船ばかりになったのは、船体が堅牢なのに加え、現在の船と同じように鋭い船首で波を切り裂き、西洋のヨットほどではありませんが、逆風でも進むことができる、すぐれた帆走性能があったからです。

千石船で大阪と北海道を1往復すると、北前船は千両もの利益を得ることができました。今なら6千万円から1億円と考えていいでしょう。

見習いの船乗りから始まって船頭になり、お金を貯めて、自分の船を持つと大金持ちになれたのです。武士を頂点とした身分制度のあった時代、自分の才覚と努力で、そんなチャンスをつかむことのできる北前船は庶民の夢物語でもありました。実は北前船には、数多くの遭難記録があります。それでも「北前船の夢」を追う船乗りが、絶えることはありませんでした。

北前船は、さまざまな文化も運びました。例えば食文化。北海道の昆布によって、西日本で現在の和食の基礎ができました。

民謡もあります。九州が発祥の「ハイヤ節」は、新潟県の「佐渡おけさ」となり、さらに青森県の「津軽アイヤ節」に姿を変えました。島根県の「出雲節」が、「秋田船方節」になったのも、北前船の船乗りが覚え伝えて、それぞれの地域に定着した結果です。

日本海沿岸各地に残る「裂織（さきおり）」は、古着を裂いて横糸にした織物です。しなやかで、丈夫な木綿は江戸時代の初め、今の大阪府で綿花栽培が始まり、日本人に「衣料革命」をもたらしましたが、寒い地方では綿花が育ちません。裂織は、北前船が運んだ古着など貴重な木綿のリサイクル技術です。そこから派生した「刺し子」は、今でも各地に伝承されています。

右／小浜の写真師・井田米蔵が、明治末期から大正期にかけて撮影した北前船（井田家所蔵古写真・福井県立若狭歴史博物館提供）（８P、10Pの写真も同様）

左／日本海の荒波

北前船の歴史

北前船が登場する以前、北海道の産物を一手に取り扱っていたのは、戦国時代の末期から松前に進出していた近江商人でした。彼らは商品を敦賀で陸揚げし、琵琶湖を経由して大阪へ運んで売りさばきました。

自前の船を持つ近江商人もいましたが、多くは共同で船を仕立て、船乗りを雇いました。その多くは、北陸の船乗りです。後にこの中から自分の船を得て、北海道の産物を大阪で売る人たちが現れます。それが北前船ですが、そのきっかけとして、航路の整備が見逃せません。

幕府は寛文12年（1672）、江戸の商人・河村瑞賢に、最上川流域にあった15万石の天領（幕府の領地）の米を、河口の酒田から江戸まで運ぶ航路の整備を命じました。酒田から江戸までは、津軽海峡を通過して太平洋岸を航行した「東回り」の方が近いのですが、とても危険な海域が続きます。そこで瑞賢は佐渡の小木、下関、大阪など10か所を正式寄港地と定め、その他の港に入港した際も無税とするよう沿岸の各藩に通知し、超長距離の「西回り航路」を整備しました。

この航路の安全性を知った津軽、秋田など日本海側の諸藩も大阪まで直航で、年貢米を運ぶようになります。

近江商人の敦賀―北海道航路と、瑞賢の西回り航路のうち酒田―大阪航路が結びついたのが「北前船の航路」と言えます。けれど、すぐに北前船が動き始めたわけではありません。

敦賀で陸揚げする米は減りましたが、近江商人が運ぶ北海道の産物は逆に増え続けました。江戸時代になって全国的に開田が進み、人々の暮らしが豊かになって、昆布や身欠きニシンなどの需要が急速に増えたからです。昆布については、江戸時代になって内浦湾の真昆布の生産量が急増し、京阪神へ大量に供給できるようになったという事情もあります。

そして綿花、イグサ、藍などの換金作物の栽培が瀬戸内一帯で広がるにつれ、肥料の需要が高まりました。ところが九十九里浜（千葉県）など、それまで魚肥となるイワシの大量供給地でも水田開発が進み、地元需要のために西日本へは運ばれなくなりました。イワシに代わる魚肥となったのが、ニシンです。18世紀に入ると、ニシンを煮て魚油を絞った残り粕を肥料にする技術が生まれ、大量に供給できるようになりました。

近江商人に雇われていた北陸の船頭たちは「同じことをやれば大もうけできる」と考えるようになりました。そのために①自前の船を持つ、②近江商人以外の江差や函館の商人と取引する、③大阪の商品問屋と直接取引をする―などの努力を経て、彼らは近江商人から独立しました。

これが北前船です。18世紀中ごろのことでした。

18世紀末、かなりの強風でも破れない丈夫な帆布（松右衛門帆）が発明されて、大阪―北海道を年に2往復できるようになりました。また北陸だけでなく、各地に「北前船商売」をする船主が登場し、近・中距離をこまめに走らせ始めます。さらに19世紀になって幕府が東蝦夷地（内浦湾から東の北海道）を直轄地としたことから、その産物を江戸へ運ぶ商人も出てきました。こうして北前船は多様になって行ったのです。

実は、北前船の最盛期は明治になってからです。江戸時代は松前藩が松前、江差、函館しか回船の入港を許さなかったのですが、明治3年からどこの港でも交易できるようになったからです。また、西洋式帆船のように複数の帆を装着するなど、船の改良も進んだことも理由のひとつです。

しかし、明治20年代になると、少しずつ北前船の利益は減り始めました。

通信手段が手紙しかなかった時代は、地域によってばらつきがある商品価格を知ることができたのは、実際に各地を訪れる北前船の船頭ぐらいだったので、その「差額」を利用して大きな利益を得ることができたのです。ところが、電信という文明開化の通信手段が次第に普及し、価格情報が北前船の独占ではなくなって来ました。

そして明治24年、東京―青森間の東北本線が全通しました。津軽海峡さえ越えれば、北海道と東京が陸路で直結することになったのです。また、荷物を大量に、しかも安全に輸送できる汽船が次第に普及し始めました。

明治30年代になると北前船はどんどん姿を消し、日露戦争によって北海道周辺の海が危険になったことが、北前船の歴史にピリオドを打ちました。

江戸時代に西回り航路の起点として整備された酒田湊。最上川河口を一望できる日和山公園には西回り航路を整備し、北前船と酒田湊発展の礎を 作った河村瑞賢像や航路の安全を祈願して文化 10 年（1813 年）に建立した常夜灯があり、今でも日本海を見守っています

船乗りの組織とマネジメント

旧暦2月、現在の暦で3月になると北前船が出帆する季節です。多くの船は大阪を出ますが、船主によっては秋田、酒田、新潟などそれぞれの地元で冬囲いし、「上り一番船」としてまず大阪へ向かい、改めて北海道を目指す船もありました。

北海道に着くのは4月末～5月です。北海道の産物を積み込んで、再び大阪を目指して出港するのは8月ごろになります。多くの北前船主がいた北陸の例ですが、台風シーズンの前に下関から瀬戸内海に入り、大阪・淀川の支流に船を係留し、船頭以外の船乗りたちは、徒歩で帰郷しました。

帰郷した船乗りたちは、毎日のように船主の家で掃除、雪除け、もちつきなど、頼まれれば何でもやりました。でも10日ぐらいは休みをもらい、湯治に行くのが楽しみだったそうです。

一方、大阪に残った船頭は、売れ残った積荷があれば売りさばき、翌年春に積み込む商品を仕入れる大事な役目がありました。故郷に帰れるのは、正月の前後ぐらいだったそうです。

米を1千石積める北前船には、通常11～13人が乗り組んでいました。

最高責任者は、船頭です。船の運航から商品の売買、乗員の統率まですべてを統括していました。

その下には、「三役」と呼ばれる重要ポストがありました。

まず、現在の航海士にあたる「表司」です。出帆すれば昼夜を問わず進路を見定め、目的地までの航路を指示します。次に、帆や舵の操作、その他すべての甲板上の作業を指揮する「親仁」。水夫長ですね。

「三役」ではもう1人、事務長である「知工」が重要です。積み荷の受け渡しを指示し、帳簿を付け、船頭と相談してお金の出し入れをしました。北前船は大金が動く取引も多く、責任の重い仕事でした。

一般船員は、水主と言います。この中で表司を補佐する片表、舵を動かす楫子、碇を上げ下げする「碇捌」などの職務は、ベテランの役目でした。一番下が、調理担当の炊です。朝は最も早く起きて飯を炊き、寄港しても船の留守番をさせられました。

船乗りのスタートは炊です。普通は14～15歳で雇われます。航海を重ねて楫子、碇捌、片表などに成長し、やがて三役、船頭となるのですが、三役や船頭の年齢は40代、50代が多く、炊からは30年もかかるのが普通でした。

船頭は、船主に雇われた「沖船頭」と、自分が船主の「直乗船頭」に区別されます。北前船の船頭は取引の責任者でもあるので、人並み以上の「読み書き算盤」の能力が求められました。それで、知工がしばしば船頭に昇格しました。航海は、しっかりした表司と親仁がいれば間に合ったからです。

中には30代で沖船頭になる人もいれば、50歳を過ぎても水主のままという人もいました。船乗りの出世は、実力本位だったのですね。

千石積みの弁才船を1艘造るには、千両かかるのが相場でした。中古船でも5百両はしました。しかし沖船頭から独立して、船主となった人は数え切れません。そんな金をためられるほど北前船の船頭の給料が高かったのかと言うと、そうではありません。

大阪―江戸を往復した菱垣回船や樽回船の船頭は、年に30～40両の給料がありました。当時の花形職業だった大工の棟梁は、年収が25両ほどでしたから、最も高給の職業でした。

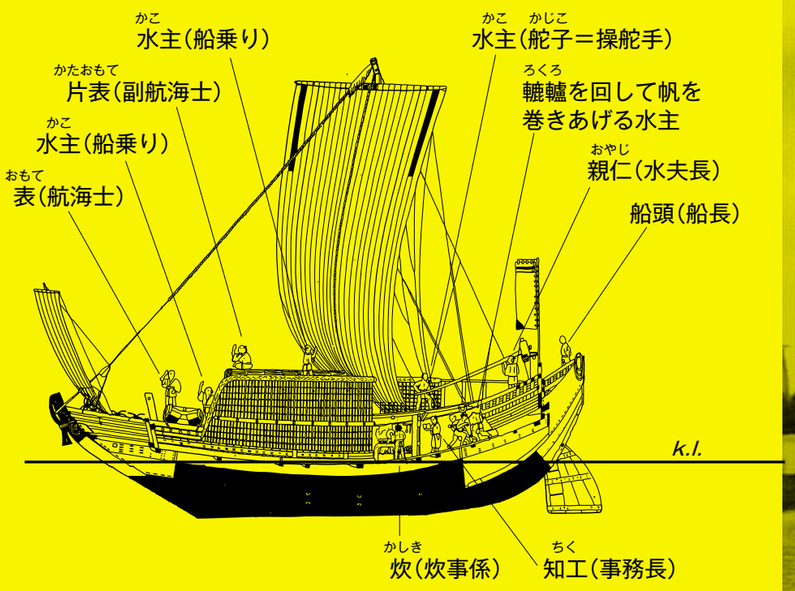
これに対して北前船の船頭は、1航海の給料がたった2、3両でした。しかし船頭には、船主の積み荷の1割程度、自分の商品を積むことが許されていました。千石積みの北前船の利益は千両にもなりましたから、単純に計算すると、船頭は1航海で百両を稼ぐことができたのです。この売買を「帆待ち稼ぎ」と言います。他の航路では許されませんでしたが、北前船では早くから認められていました。

三役以下の乗員にも、「切出」というボーナスがありました。船主が、売上高のうち5～10％を船乗りに分配したのです。こうすると船乗りたちは船主の荷物を大切に扱い、船頭が自分の荷物ばかりを優先させないよう見張る役目も果たしてくれます。よくできた「社員管理術」と言えますね。

こうして、船頭になるまでにも貯金できる仕組みがあったので、遭難の危険があっても北前船に乗りたがる人は絶えませんでした。身分制度が厳しかった江戸時代、北前船は、荒海へ乗り出す勇気と、商売の才覚さえあれば、普通の庶民が大富豪になれる「夢物語」だったのです。

北前型弁才船・乗組員の配置

出所：（財）日本海事科学振興財団 発行『北前船』より



動く総合商社「北前船」

北前船は、大阪―北海道の往復が基本的な航路です。北海道に着くまでにあちこちの寄港地で、売れそうな物は何でも買い、帰りにはニシン、昆布などを満載して瀬戸内海を目指すのが通常でした。それは北海道唯一の大名領、松前藩の特殊事情にもよります。

稲を育てられなかった江戸時代の北海道では、主食の米はもちろん、稲わらもないのでナワ、ワラジをはじめ、ほとんどの生活物資を本州から手に入れなければなりませんでした。松前藩の人々はその資金を、アイヌの人たちが獲る鮭などの海産物を物々交換で手に入れて、松前の近江商人に売って得ていました。つまり松前藩は、最初から、交易で成り立っていた大名領だったのです。

米は、物々交換でそのおいしさを知ったアイヌの人々も欲しがる商品でした。大阪の米市場には、日本海沿岸から西日本全域の大名の年貢米が集まりました。北前船は大阪を出帆する時に米を仕入れましたが、敦賀や新潟、酒田などでも大名の年貢米は売買されました。その相場を見て、安い米を買い足し、逆に高ければ積荷の米を売りました。

もうひとつ、瀬戸内の塩は、日本海へ出ればどこででも売れました。瀬戸内に塩田が広がった理由を、よく「遠浅の浜辺が多く、晴れた日も多いから」と説明されますが、もうひとつ、北前船の役割が見逃せません。北前船によって販路が広がったから、安心して生産量を増やすことができたのです。

また北海道では、それまで乾燥させるしか保存方法のなかった鮭を、塩鮭に加工できるようにもなりました。そして19世紀、北海道の東半分を幕府が直轄地としてから江戸へ直航する船が現れ、江戸っ子が塩鮭で朝飯を食べられるようになりました。

江戸初期、河内（大阪府）で綿の本格的な栽培が始まり、糸をつむいで織った木綿は、それまでの麻などの布地に比べて柔軟性があり、吸湿性にもすぐれ、日本の衣類に革命を起こしました。しかし綿は熱帯性の植物で、北国では栽培できません。だから木綿は古着でも、端切れでも大歓迎され、北前船の必須商品となりました。

江戸時代の鉄の8割は、中国山地で生産されました。砂鉄を原料にした「たたら製鉄」です。北前船が運んだ鉄は鍬や鎌などの農具、鍋、飯を炊く釜などの生活用具に加工され、人々の暮らしを支えました。また各地に刃物産業を興すことにもなりました。

紙も、北前船が原料のコウゾやミツマタなどを運んだおかげで、各地で生産され、重要な商品となりました。

石も、大事な積み荷です。船を安定させるためもバラスト（重石）として積み込まれました。北海道交易が近江商人だけだった時代は、福井県坂井市の三国で積み込む笏谷石ばかりでしたが、大阪を出発する北前船の時代になると、瀬戸内各地で積み込む御影石が主流になりました。

このほか、陶磁器、漆器、ロウソクなどの生活用具から、お菓子や人形まで、北海道への下り船ではありとあらゆる物を運んだと言えます。

そういう意味で、北前船は「動く総合商社」だったのです。

しかし、千石船の1航海で千両（今なら6千万円～1億円）という北前船の利益の中で、「下り船」は百両ほどです。残り9百両の利益を生んだのは、大阪へ戻る上り船です。

最大の商品は、ニシンでした。春になると海の色が変わるほど海岸に押し寄せた北海道のニシンは、煮て魚油を絞り、残ったニシン粕を発酵させて肥料にします。これが仕入れ値の5倍、時には10倍でも売れたのです。北前船の大もうけの秘密は、ニシンだったと言ってもかまいません。

上り船には干したアワビ、ナマコ、フカヒレも大量に積み込まれました。この3品は俵に詰めて運ばれたので俵物と呼ばれ、長崎から中国への輸出品になりました。

中国へは昆布も大量に輸出されました。中国大陸の内陸部に多かったバセドウ病という病気に効く薬草として、甲状腺ホルモンの異常が原因の病気に効く薬でした。

古くから日本では昆布を食べていましたが、北前船が大量に運んだおかげで、和食の基本である昆布出汁が庶民の味となり、富山県の昆布巻きかまぼこ、各地のおぼろ昆布、そしてアナゴの昆布巻きのような料理も広まったのです。

北前船の恩恵は、さまざまな形で現在まで及んでいるのですね。

右／松前城

北海道と北前船

北海道小樽市　北海道石狩市
北海道松前町　北海道函館市

北前船の折り返し点は、北海道の港です。松前藩の人々の食糧、生活物資を運び、帰りにはニシン、昆布などを積んで、北前船が巨万の富を得たことは、前に紹介しました。でもこれは、北前船側の視点です。逆に松前藩の方にも、大きな恩恵がありました。

松前藩は松前、江差、函館の3カ所を交易港と定め、それ以外には本州から来る回船の寄港を認めませんでした。藩の領地であり、和人（アイヌ以外の、本土から移り住んだ人々）の居住地域がこの範囲だったからです。が、それに加えて、役人が監視できない場所では税金が徴収できないという理由もありました。

松前藩では出港税を取っていて、北前船の時代にはこの税収が藩財政を支える大きな柱でしたから、すべての回船を監視するためにも港を限定したのです。入港税を取る藩もあり、多くの港で、そこで商売をすれば移出入税（移出は取引税、移入は関税と考えてください）を徴収するのが普通でした。北前船の寄港地では、そこを管理する大名にも多額の収入をもたらしたのです。

ところで、松前藩の出港税は、船の大きさに応じて税額が決まりました。それが次第に、北前船の形を変えることになります。

北海道松前町

北海道函館市

北海道石狩市

北海道小樽市

函館漁港船入澗防波堤灯台

恋する北前の歌

江差追分で恋する女性の想いが詠われた場所。
『忍路 高島 およびもないが せめて歌棄 磯谷まで』

Otaru-shi

北海道 小樽市

江戸時代後半に始まるニシン漁業と、明治時代以降の港湾整備によって発展した小樽。明治2年（1869年）、蝦夷地が北海道と改称され開拓使が設置されると、各地から移民が押し寄せ人口が急増しました。北前船は従来の道南での交易に加え、それら移民の生活を支える物資を運ぶという、新たな役割を担うようになり、北前船の船主たちは次々と小樽に進出し、営業倉庫を設立するなど新しいビジネスを展開しました。

小樽市街地から西に位置し、赤白ツートンカラーの「日和山灯台」を見下ろすことができる「祝津パノラマ展望台」。ここには北海道を代表する民謡、江差追分の歌碑が立てられています。江差追分については諸説ありますが、ニシン漁に出かけていく男性を、「忍路・高島」まで追いかけたいけれど、難所の岬を越えられず、「せめて歌棄磯谷まで」、と想う女性の心を詠ったものとして伝えられています。山の中腹には小樽市鰊御殿が移築され、ニシン漁で賑わった当時の様子を伝えています。

①

②

③

④

①旧北浜地区倉庫群　今でも当時の面影を街のいたる所で見ることができます。河野の右近権左衛門の旧右近倉庫など、北陸の名だたる北前船の船主たちも小樽に倉庫を構えていました。

②小樽市総合博物館 運河館　加賀の船主、西出孫左衛門、西谷庄八が建てた旧小樽倉庫を利用して作られた博物館。豊富に残る北前船資料は、北前船ファンならずとも必見。

③飴屋六兵衛本舗　初代が越中富山で開業し、3代目の時に小樽に渡ってきた飴屋の老舗。当時の小樽は大手銀行の支店が建ち並び、華やかな賑わいだったそうです。

④魚真　鮮度の良さで評判の名店。寿司や海鮮丼のほか一品料理を揃えています。

宝船がやって来た

北前船は、開拓時代の生活物資を支え、石狩の人々に宝船として愛されました。

Ishikari-shi

北海道 石狩市

石狩は、北海道をめざして日本海の荒波を乗り越えてきた北前船の目的地の一つでした。松前藩の時代が終わり、江差、函館、松前以外への北前船の来航禁止が解かれると、多くの北前船が、鰊粕を求めて北に向かいました。北前船の時代、鰊は主に食料としてではなく、瀬戸内で栽培される綿花や藍などの肥料として、高値で取引されたのです。

石狩北部にある厚田神社には鰊の豊漁記念碑が残されています。その地にオープンした道の駅石狩「あいろーど厚田」には、「一航海千両」といわれた北前船の巨大な利益を支えた鰊粕を積みこむ北前船の情景を再現した、地元の方による手作りのジオラマが展示されています。また、鮭を使った鍋料理が「石狩鍋」と呼ばれているように、北海道一の大河石狩川の河口にある石狩は鮭とともに発展した街でした。石狩川河口には、たくさんの北前船が入港していました。上り荷として鰊と鮭を求めてやって来て、下り荷として米や衣類などあらゆる生活物資を運んでくれた北前船は、石狩の人々にとって宝船でした。

①

②

③

④

①厚田神社豊漁記念碑　明治 24 年の鰊 5 万石の売り上げは、今のお金で約 50 億円。

②金大亭　石狩鍋発祥の料亭。明治 13 年の創業当時の建物が北前船の繁栄を伝えます。

③ LicoLico 厚田店　北海道ジェラートの人気店が道の駅石狩「あいろーど厚田」に登場。厚田限定のはまなすソルベと厚田ブルーがおすすめ。

④長野商店　ここに行けば、米・塩・お酒から呉服まで、百貨店のようになんでも揃うお店でした。明治 7 年創業当時の和洋折衷様式の建物です。

北前船を見守る山

函館から吹く風が、函館に繁盛を連れてくる
船乗りが夢みた１００万ドル、今は夜の輝きに。

Hakodate-shi

北海道 函館市

江戸時代、松前、江差と並ぶ松前藩の交易港だった箱館。当初は北前船にとっては魅力に乏しかったのが、東蝦夷地の幕府直轄によって一変します。東蝦夷地のアイヌ交易により、その産物が箱館経由で流通すると、北前船の来航が急増したのです。箱館奉行によって進められた市街地整備は北前船の富が加わって加速しましたが、その中心が、豪商・高田屋嘉兵衛でした。

北前船の男たちが出航前に、日和を見た場所として知られる函館山。山頂へのアクセスはロープウェイで、函館市内の昼、夜、様々な表情が楽しめます。函館山からの眺望は「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」に３つ星として掲載されていて、植物や渡り鳥が分布・生息する自然豊かな場所としても知られています。かつて函館山周辺には４か所の砲台が建設され、函館港、函館湾を守った軍事要塞などの歴史スポットも見どころ。かつて、船乗りたちは、この海の彼方にどんな夢を描いていたのでしょう。

①高田屋嘉兵衛最中　江戸時代函館繁栄の基礎を築いた豪商高田屋嘉兵衛の北前船を最中にしています。香ばしい皮と和三盆糖を加えた上品なあんの最中です。

②函缶　函館モチーフを散りばめた函缶。好きな商品を詰めて封缶すれば、世界でひとつだけのお土産に。

③ティーショップ夕日　明治18年に建てられた検疫所跡を活用した海を臨む日本茶カフェ。店名の通り、絶景の夕日が名物。オレンジから青に変わる空をお見逃しなく。（写真提供／函館市公式観光情報サイト「はこぶら」）

④箱館奉行所跡　幕末の北辺警備と対外折衝の重責を担った箱館奉行所。箱館戦争の２年後に解体されましたが、往時の建築を駆使して忠実に復元。

船が運んだ京の桜

その昔、京や江戸を偲んで植えた桜の木
満開の姿を見りゃ、あなたを忘れる暇もない。

Matsumae-chou

北海道 松前町

春、海の色を変えるほどニシンの大群が押し寄せた松前。17世紀、松前に出店を開いた近江商人は、松前のニシン、昆布、干しあわびなどの産物を京都、大阪などの市場で売りさばき、代わりに呉服物、米、味噌などを松前に運んで商いをしました。物資だけでなく運んだのは京都の文化も。寺院の庭園樹、桜、椿などの多くはこの頃、松前に運ばれたと言われています。

松前が桜の名所となったのは、松前藩の時代。当時の商人や京から嫁いできた藩主の奥方が故郷を懐かしんで桜の木を植えたのが始まりと言われています。北海道で唯一の日本式の城である松前城を中心に作られた松前公園は、「さくらの名所１００選」にも選ばれており、津軽海峡を眺めながらの桜は圧巻です。4月下旬から約1か月間、早咲き、中咲き、遅咲きと「時差開花」する、色も姿も様々な桜が見事に咲き誇ります。淡い黄色のウコン桜など珍しい品種も。幻想的な夜桜のライトアップはいつの時代も、見る者の胸をはらはらと、ときめかせます。

①温泉旅館「矢野」　アクティブな若女将が営む、松前町一番の老舗旅館。松前藩主料理と温泉が楽しめます。

②松前藩屋敷　江戸時代の町並みを復元した観光施設。当時の暮らしぶりを体験する事ができます。

③北前食堂　道の駅「北前船　松前」内にあるこちらでは、松前港で揚がった新鮮な魚介を豪快にいただける海鮮丼のメニューが充実。

④松前漬　松前藩が発祥の郷土料理で、数の子、昆布、スルメを醤油たれに漬け込んだ珍味「松前漬」。

風待ち港でも商品売買

青森県鰺ヶ沢町　青森県深浦町　秋田県男鹿市
秋田県にかほ市　兵庫県新温泉町

日本海沿岸には、風雨が激しくなった時に逃げ込む小さな湾や入江がたくさんありました。これを「風待ち港」と言います。

例えば島根半島の宇龍と鷺浦（島根県出雲市）、兵庫県但馬地方の香住、今子浦、柴山（香美町）、能登半島の福浦（石川県志賀町）、庄内藩の外港でもあった加茂（山形県鶴岡市）、芭蕉が「奥の細道」で立ち寄った象潟（港の名は塩越＝秋田県にかほ市）、津軽の深浦（青森県深浦町）などは、現代人には「小さな漁港」程度の広さに思えるでしょうが、外海の荒波を防いでくれる地形で、北前船にはありがたい港でした。このような場所にも回船問屋があり、北前船と取引するだけで立派に商売が成り立ちました。

風待ち港から始まって、大きな交易港となった例もあります。広島県呉市の大崎下島東岸に位置する御手洗（みたらい）です。すぐ目の前に小島があり、四方の風を防いでくれる御手洗が絶好の風待ち港であることを発見したのは、幕府の米を積んで大阪を目指した西回り航路の船頭たちでした。御手洗は次第に整備され、北前船の時代が始まると、広島藩で最もにぎわう「西国無双の港」と言われました。

青森県鰺ヶ沢町

青森県深浦町

秋田県男鹿市

秋田県にかほ市

兵庫県新温泉町

千畳敷海岸（深浦町）。1792 年の地震により隆起して出来た岩床の海岸

船乗りの祈祷寺

風まかせ帆まかせ、時に嵐の船上で
船乗りが命がけの願かけ込めたたこの「まげ」に。

Fukaura-machi

青森県 深浦町

深浦は津軽で一番の「風待ち港」として栄えた港でした。行合崎（ゆきあいざき）は細長く突き出た岬で、その沖で北前船が行き交うことからこの名がつけられました。行合岬と入前崎に囲まれた深浦の歴史を紹介しているのが資料館「風待ち館」で、北前船の模型や船絵馬、古い海路図などが展示されています。町歩きの拠点として、深浦に着いたらまず立ち寄りたいスポットです。

円覚寺寺宝館に奉納された70枚の船絵馬や「髷額（まげがく）」は28点にも及び、国内髄一の数を誇ります。「髷額」は、荒天のため遭難の危機に瀕した船乗りたちがちょんまげを切り落とし、ざんばら頭になって一心不乱に祈り生還した後、そのお礼に奉納したもの。明治になって、北海道へ向かう北陸や能登の船は深浦に入港するとまず、円覚寺に参拝してから、自宅に無事を知らせる電報を打ちました。太宰治は小説「津軽」執筆のために深浦を訪れ、円覚寺の薬師堂に参拝し、深浦を「完成されている町」と表現しています。

①**白神硝子**　吹き抜けのある工房では、作家たちの制作風景が見学でき、グラスやピアスなどの作品作りもできます。

②**不老ふ死温泉**　日本海に突き出た黄金崎の突端に位置し、海に面した、ひょうたん型の露天風呂で知られる温泉。鉄分を含んだ茶褐色のお湯。名前の由来は、宿の先代が好んで使っていた言葉から。

③④**円覚寺**　坂上田村麻呂が蝦夷東征の際、十一面観音を安置したことに始まるこの寺は、海上の安全を願う船乗りたちの信仰を集めました。

北の京菓子

田舎もの？いえいえ、生まれは京の都です。
「くじら」の味はしないところに味があります。

Ajigasawa-machi

青森県 鰺ヶ沢町

津軽藩の海の玄関としてにぎわった鰺ヶ沢。北陸や瀬戸内海、大阪からの船が日用品、京や大阪の文化などを運び、また、藩米を大阪に積み出す御用港として栄えました。２００年以上前に描かれた「鰺ヶ沢町絵図」を見ると、現在の町の姿と比べてほとんど変わりなく、絵図を片手に北前船ゆかりの街歩きが楽しめる博物館のような街です。

北前船で伝わった食文化のひとつが「鯨餅」。餅米とうるち米を粉にしたものに、砂糖を混ぜて蒸し上げた、モチモチとした食感で上品な味わいの餅菓子です。ちなみに、鯨の肉は入っていませんのでご安心を。白と黒の二層になった断面が、鯨の皮に似ていることからその名前がついたとか。京都発祥のお菓子が青森や山形に伝えられ、鰺ヶ沢では「鯨餅」、その他の地域では「久持良餅」「くぢら餅」などと呼ばれています。日本海の荒波が印象的な包装紙のデザインは、山並みの迫る海岸線と後方にそびえる岩木山を同時に眺めることができる名所、鰺ヶ沢港からの風景をモチーフにしています。

①**わさお**　「ブサかわ犬」（不細工だけどかわいい犬）として一躍有名になった秋田犬（推定10歳）。現在の姿は公式ツイッターでチェック。

②**polepole**　「ポレポレ」とはスワヒリ語で「のんびりと」の意味。陶芸家のご夫婦から生まれる、ウキウキと楽しく元気がわいてくる器たち。

③**鰺ヶ沢温泉水軍の宿**　安東水軍をしのばせる建屋と日本海の旬の食事が自慢のお宿。保温保湿に優れたお湯は、「天然のタラソテラピー」として評判。

④**日和山の碑**　７世紀頃、阿部比羅夫が渡嶋に渡るため、日和を見たという伝説が残る山です。

男鹿のソウルスイーツ

男鹿の道端に咲く一輪の花。それはババヘラ。
男鹿の女性がアイスの花を咲かせます。

Oga-shi

秋田県 男鹿市

船川港は男鹿半島南東部に位置し、北西にある真山などの山地が季節風を防ぐ恵まれた地形のため、明治44年（1911年）の築港以前も、船が避難する「風待ち港」として利用されていました。汽船や大型帆船の時代に入ると、土崎港よりも海底が深く岩盤である船川港は注目を浴び、大正15年（1926年）には三千トン級の埠頭が出来上がり、小樽ーウラジオストクの定期船が寄港するようになりました。また、北岸の北浦には秋田県最大の北前船主・田沼慶吉が学校や道路を建設するなど、彼の地域貢献の痕跡が残っています。

男鹿を中心に秋田では夏が近づくにつれ、道路端でカラフルなパラソルを見かけるようになります。その下にいるのは、やはりカラフルなエプロンを掛けたアイス売りのご婦人。秋田の夏の風物詩「ババヘラアイス」です。売り子のお「ババ」がアイスをヘラで盛るから「ババヘラ」。ピンクはイチゴ味、黄色はバナナ味。どこの「ババヘラ」もこのカラーコードは厳守です。

①寒風山（かんぷうざん） 男鹿半島が一望できる、360度の大パノラマ。標高約355mの火山でもある寒風山は、パラグライダーの聖地でもあり、眼下に海を眺めながら空中散歩ができます。

②こおひい工房珈音 琴川にある自家焙煎珈琲を提供するお洒落なカフェ。マスターの佐藤さんは江戸時代に北前船で伝えられたという「琴川のすげ笠」の伝承も行なっています。

③真山神社五社殿 北前船の船乗り達が航海安全を祈願して残した落書きが社殿に残っています。写真の落書きは加賀の船乗りのサイン。重要無形民俗文化財「男鹿のナマハゲ」ゆかりの神社で、古代以来の荘厳な雰囲気を感じられます。

④木彫りなまはげ 真山神社の授与品で、境内のご神木から一刀彫で作られています。

時かける北前の酒

鳥海山を越えて飛来してくる風がリンゴ酸多産性酵母No.77と出逢いました。

Nikaho-shi

秋田県 にかほ市

鳥海山を背に日本海に開けた塩越湊は大澗、小澗、鰐渕の総称です。なかでも最大の大澗沖には千石船が12艘も碇泊でき、船と陸を結ぶ艀船（はしけぶね）が行き交っていました。沖には船を係留した棒杭が残っており、往時を偲ばせています。塩越港から米が大坂や松前へ運ばれるとともに、塩、海産物、砂糖、織物などが運び込まれました。また、にかほ市には塩越港のほか、金浦、三森、平沢にも寄港しました。塩越港の周辺には11の神社があり、それぞれに船絵馬が残っています。

飛良泉（ひらいづみ）本舗は室町時代から500年以上続く日本で3番目の歴史ある老舗酒造ですが、北前船の時代は廻船問屋で、酒造りは副業でした。明治時代、鉄道の開通による廻船業の衰退とともに、本業を酒造りへと移し、現在では昔ながらの山廃仕込みにこだわりながらも、現代的な日本酒を送りだしています。そのうちの一つ、「まる飛シリーズNo.77」は、リンゴ酸多産性酵母No.77を使用。林檎の様な甘酸っぱさが新しい風味を醸し出しています。

①池田修三 にかほ市象潟（きさかた）町出身の木版画家。子どもたちを描いた情景など、センチメンタリズムを感じる作品を創り続けました。道の駅象潟「ねむの丘」ではポストカードやマスキングテープなどの作品を販売しています。

②元滝伏流水 鳥海山に染み込んだ水が長い歳月をかけ、幅約30mの岩肌一帯から滝となって湧き出しています。一日５万トンもの水量です。

③象潟九十九島 鳥海山のふもとに点在する100あまりの島々が、田園地帯に浮かんでいるような不思議な風景を見ることができます。

④白瀬南極探検隊記念館 にかほ市金浦出身の白瀬矗とロマンに共感した30人の男たちが明治末期、南極の白い大陸に繰り広げた壮絶な人間ドラマを記録した記念館です。

神戸牛と言いますが

すべて元(もと)は、但馬牛(たじまうし)。
新温泉町は、但馬牛のふるさとです。

Shinonsen-chou

兵庫県

新温泉町

トンネルを抜けるたびに現れる美しい入江に「わぁきれい！」と声があがります。日本海に沿った但馬地方の陸路（ユネスコの山陰海岸ジオパークに認定）はそんな光景の繰り返しです。新温泉町諸寄(もろよせ)は狭い入り口から内部に広がる天然の良港で、江戸時代から、北前船の寄港地として栄えており、中藤田家（網干屋）、東藤田家、道盛家（千原屋）などの有力船主がいました。北前船による人や物の交流で、地域の文化も活性化。諸寄地区出身の明治期の歌人前田純孝や日本画家谷角日沙春ら、多くの文化人を輩出しました。

道の駅「山陰ジオパーク 浜坂の郷」内にある精肉店「肉のたじま屋」では本場の但馬牛に出会えます。伝統的な血統と優れた資質を守り続け、さらに日本一厳しいと言われている定義を満たした優秀な黒毛和牛のみが名乗ることを許される「但馬牛」。その霜降り肉の美しさ、美味しさを堪能できます。同駅内の「たじま屋食堂」では、但馬牛ローステーキ定食をはじめ、各種但馬牛メニューが用意されています。

①

②

③

④

①諸寄の海　城山園地から見る天然の良港「諸寄湾と海金剛」。湾の先端には日和山が望めます。

②北前船係留杭跡　日和山の灯台の下に広がる岩場には、かつて北前船を係留した棒杭の穴が数多く残っています。

③諸谷山龍満寺　修行僧の教育が厳しく、江戸時代から「馬北（北但馬）の鬼道場」として知られ、多くの高僧を輩出。特に「狼玄楼」と証された老師は日本でも屈指の方だったといわれています。

④ゲストハウス 東藤田邸　北前船の寄港地諸寄で廻船問屋を営み、「東藤田」の屋号で知られた邸宅を、宿泊と多目的施設にリフォーム。かつての米蔵は吹抜けの喫茶室になりました。

船主を輩出した集落

新潟県佐渡市　石川県輪島市
石川県加賀市　福井県南越前町

大正5年（1916）発行の雑誌『生活』（博文館）に、「日本一の富豪村」と紹介されている場所があります。江戸時代は加賀百万石の分家である大聖寺藩領、今は石川県加賀市の橋立と瀬越です。

瀬越の大家七平、広海二三郎は明治になって蒸気船を導入し、北前船から近代海運業へと飛躍しました。

橋立でも弘化2年（1845）、大聖寺藩に1万両（今なら10億円）を献金した久保彦兵衛をはじめ、千両以上出した家が軒を連ねていました。彼らはすべて、北前船主です。

橋立も瀬越も、多数の千石船が碇泊できる港はありません。船の基地は大阪で、寄港地ではなく、船主や船頭が多く居住した「船主集落」といえます。橋立には船主の屋敷が14軒現存し、中心部の120戸は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

「北前船の里資料館」になっている7代目酒谷長兵衛の屋敷は、とても豪壮ですが、それでも橋立の北前船主としては中の上クラスだったそうです。久保彦兵衛家には、藩主をお迎えする豪華な座敷があって、それは今、金沢市の武家屋敷、野村家に移築・保存されています。

河野浦（福井県南越前町）は耕作地がほとんどなく、古くから船乗りを輩出した村です。その中から幕末に中村三郎右衛門、右近権左衛門が北前船で急成長しました。

中村家は非公開ですが、公開されている右近家の本宅に入ると、ヒノキやケヤキの柱、梁の太さに驚かされます。裏山には、昭和10年建築の別荘があります。1階はスペイン風、2階はスイス風にデザインされた、今もモダンな洋館です。

また、佐渡市の宿根木も昔の姿そのままに残る船主集落です。小さな入江にびっしりと、軒を接するように家が建て込んでいます。敷地そのままに建てた三角形の家があるほどの狭い土地で、120軒、6百人もが生活できました。幕末、宿根木の回船が長州（山口県）沖で海賊に襲われ、2千両も奪われた事件からも、宿根木の船主たちの繁栄が想像できます。

石川県加賀市

福井県南越前町

新潟県佐渡市

石川県輪島市

橋立保存地区。加賀南部で生産された赤瓦が残る屋根並み（加賀市提供・無断転載禁止）

千石船産業の基地だから

わずかな土地を無駄にしない発想で
まるで船のような私が生まれました。

Sado-shi

新潟県 佐渡市

西廻り航路の寄港地であった小木港から南西約4㎞に位置する宿根木は、江戸時代中頃から明治にかけて、日本海を舞台とする廻船業の基地として栄えました。この頃の宿根木には120戸500人ほどが集住し、十人余りの船主のほか船乗りや船大工らが居住していました。そのほか、干物などを扱う四十物屋（あいものや）、桶屋、紺屋、鍛冶屋、石屋といった様々な職種が集まり、廻船業に加え造船基地として発展。今に続く町並みの基礎が形づくられていきました。

家屋が密集する宿根木は「千石船と船大工の里」と呼ばれ、100棟以上の板張りの家屋がひしめき合って建っています。「4館共通券」を購入すれば、佐渡国小木民俗博物館・清九郎家・三角家・金子屋をめぐることができます。その三角家は土地の形に合わせて誂えた三角形で、船のような膨らみのある曲線が特徴。この場所は、吉永小百合さんが登場した広告ポスターとして知られ、人気の撮影スポットとなっています。集落内は小路が多く、迷いこむ楽しさも魅力です。

①宿根木保存地区の町並み　建物の外壁に船板や船釘を使ったものがあり、千石船産業の基地としての特徴的な建造物が保存されています。

②佐渡国小木民俗博物館　民俗学者 宮本常一氏の提案により設立。民俗資料として北前船寄港地から運ばれてきた焼き物、壺、湯呑み、大工道具、桶、看板類が所狭しと収蔵されています。展示館には実物大の千石船「白山丸（512石）」が展示され船内も公開されています。

③宿根木の隆起波食台　波などで平らに削られた海底が、地震により海から顔を出した海岸です。

④たらい舟（はんぎり）　船頭さんの名ガイドで透明度の高い宿根木海岸を巡ります。海抜ゼロの世界を人力で楽しめるエコツアーです。

凛とした私ですが

こだわり以上の下塗りを重ねてきました。
いわば伝統工芸の生え抜きですから。

Wajima-shi

石川県 輪島市

能登半島は日本海に大きく突き出すその地理的条件のため、古くから日本海の交通の要所として、経済や文化の交叉点となってきました。輪島市門前（黒島）は、そんな半島の利点を生かした、日本海を往来する北前船の拠点であり、北前船がもたらした日本海文化の足跡が数多く残る場所です。廻船問屋であった角海家は、「重要文化財旧角海家住宅」として残されています。往時の隆盛をしのぶ豪華な収蔵品を展示され、かつての繁栄ぶりを堪能できます。

輪島市門前町には、元亨元年（1321年）に開創された曹洞宗の大本山總持（そうじ）寺祖院（じ）があります。その門前には名物の蕎麦屋などが並び、能登の観光名所となっています。總持寺は、かつて全国の多くの末寺（まつじ）との間に僧侶を行き来させるのに海上交通を利用しており、情報や物品が集積する要になっていました。赤と黒の艶が映える輪島塗が全国に広がったのは、總持寺の輪番住職に付いて来た人たちが、地元に帰るときにお土産として北前船で持ち帰ったからだと言われています。

①輪島市黒島地区伝統的建造物群保存地区　北前船の船主および船員の居住地として栄え、江戸後期から明治中期にかけて全盛を極めた集落。

②ハイディワイナリー　奥能登・門前で純国産ワインを醸造するワイナリー。能登の海を一望するレストランを併設しています。

③産屋（ubuya）　安産祈願、恋愛成就のスポットです♡。輪島朝市通りの輪島温泉八汐方面の入り口近くに位置しています。

④重蔵神社　奥能登の古社、輪島の守り神「重蔵さん」では、「朝粥講」として輪島の旬の食材と昔から伝わる郷土料理を輪島塗の御膳でいただくことができます。

恋愛成就の九谷焼

浴衣娘と船頭の恋が山中節に詠われています。「夕べ習うた山中節も今朝は別れの唄となる」。

Kaga-shi

石川県 加賀市

北前船で巨万の財を築いた船主が多く、「日本一の富豪村」と言われたのが、石川県加賀市にある瀬越と橋立、２つの集落です。近くの山中温泉には北前船の船乗り衆も湯治に訪れ、彼らが航海中に覚えた民謡「松前追分」を湯の中で唄うのを聞いた浴衣娘（ユカタベ）さんが真似たのが山中節の起源だという説もあります。船頭衆と浴衣娘の恋を詠んだ歌詞も残ります。

江戸時代、湯座屋には16歳前後の浴衣娘と呼ばれるご当地アイドルが町を華やかに彩っていました。彼女たちは浴客を旅館から総湯まで案内し、彼らの入浴中その浴衣をあずかるのが仕事でした。何人の浴衣をあずかっても、一枚一枚間違いなくお客に返すというのが浴衣娘の技でもありました。16歳の女の子のことを山中温泉では、４×４（シシ）＝16から、「シシ」と呼びます。なので、ゆかたべ人形は片面が少女、もう片面は獅子の顔をしています。

①北前船の里資料館　珍しい船絵馬や、引札（回船問屋が配った広告チラシ）などが展示され、北前船主の豪勢な暮らしぶりを伝えています。

②山中温泉　松尾芭蕉が「身体の芯までしみわたり、身も心もうるおす」と絶賛した日本三大名湯のひとつ。北前船の船乗り衆も湯治に訪れ、旅の疲れを癒しました。

③加賀橋立の町並み　北前船の船主の邸宅が立ち並ぶ橋立。笏谷石の石垣と真っ赤な加賀赤瓦で統一された美しい町並みが広がります。

④石川県九谷焼美術館　「古九谷の杜親水公園」の一角に建つ、九谷焼をテーマにした美術館です。古九谷をはじめ、およそ360年もの歴史を持つ九谷焼の魅力を紹介しています。（写真提供：石川県観光連盟）

北前イタリアン

河野の日本海の幸がナポリの味に。屋敷の扉を叩いてみれば文明開化の香がする。

Minami Echizen-chou

福井県 南越前町

その昔、越前国府の武生と、京への物資輸送の拠点だった敦賀を結ぶ海運で栄えた旧河野村。越前海岸の南端、敦賀湾のほぼ入り口に位置する、「海とともに生きてきた村」でした。「河野北前船主通り」にはその名の通り、北陸五大船主の１人、右近家の豪邸や国重要文化財「中村家住宅」など、かつて栄華を誇った船主たちの屋敷が並びます。

築１００年以上の「北前船主の館 右近家」をリノベーションしたレストラン「畝来」（ウラ）。海近くのロケーションを生かし、越前河野の海で獲れたイキの良い魚介を使ったお料理が舌をうならせます。一見、硬派なカニやアンコウなどの食材がシェフの腕にかかると、陽気で小洒落たイタリアンに変身します。

ソースやドレッシング、パンまで手作りのこだわりよう。東京で修行したパティシエが手がけるスイーツやサイフォン抽出のコーヒーなど、最後まで期待を裏切りません。海近くの「北前イタリアン」はとっても男前な仕事をしています。

①「畝来」のデザートメニュー　前菜、スープ、４種類のメインから選ぶコース仕立て。おススメは福井名産、肉厚で香り高い香福茸（こうふくだけ）が豪快に乗った魚介のスープリゾット。

②和紙箱「和紙の石」　一枚一枚、丁寧に漉き上げられた和紙を優しい風合いの箱に。積み重ねると石ころのオブジェのよう。

③右近家住宅　敷地内に本宅と３棟の内蔵、４棟の外蔵が建ち本宅の内部はケヤキやヒノキ、アメリカのマツを使うなど豪勢な造りです。

④河野北前船主通り　右近家、中村家の屋敷を中心とした 200m ほど続く船主集落。北前船が栄えた当時にタイムスリップするような感覚を味わえます。

北前船が寄りたくなる港

青森県野辺地町　秋田県能代市　秋田県秋田市
新潟県新潟市　新潟県長岡市　新潟県上越市　富山県富山市　富山県高岡市　石川県小松市
福井県坂井市　福井県敦賀市　福井県小浜市　京都府宮津市　鳥取県鳥取市　島根県浜田市

九頭竜川河口の三国（福井県坂井市）、小矢部川河口の伏木（富山県高岡市）、神通川河口の東岩瀬と白岩川河口の水橋（富山市）、江戸時代は信濃川と阿賀野川の河口が一緒だった新潟（新潟市）、最上川河口の酒田（山形県）、子吉川河口の本荘（秋田県由利本荘市）、雄物川河口の土崎（秋田市）、米代川河口の能代（秋田県能代市）と、日本海に注ぐ大河の河口には、川の流域から物資が集散する港がありました。

藩の外港として物資の集散地となった浜田（島根県浜田市）、賀露（鳥取市）、宮津（京都府宮津市）、安宅（石川県小松市）、鯵ヶ沢（同鯵ヶ沢町）、それに近江商人の荷物の中継地である敦賀（福井県敦賀市）なども、北前船が「立ち寄りたい港」でした。

これらの大きな港には回船問屋が立ち並び、北前船との取引で栄えました。それだけはなく、船頭が泊まる船宿、一般船員が泊まる小宿もそれぞれに地域の小売り商人との仲介役を果たしました。さらに、大量の荷物を一時的に預かる倉庫業の商人もいましたし、船乗りを遊ばせる遊郭も、何カ月も航海する北前船の船乗りにとっては魅力でした。こうして、北前船の寄港地は大きな都市に発展していったのです。

青森県野辺地町

秋田県能代市

秋田県秋田市

秋田県由利本荘市

山形県酒田市

新潟県新潟市

新潟県長岡市

新潟県上越市

富山県富山市

富山県高岡市

石川県小松市

福井県坂井市

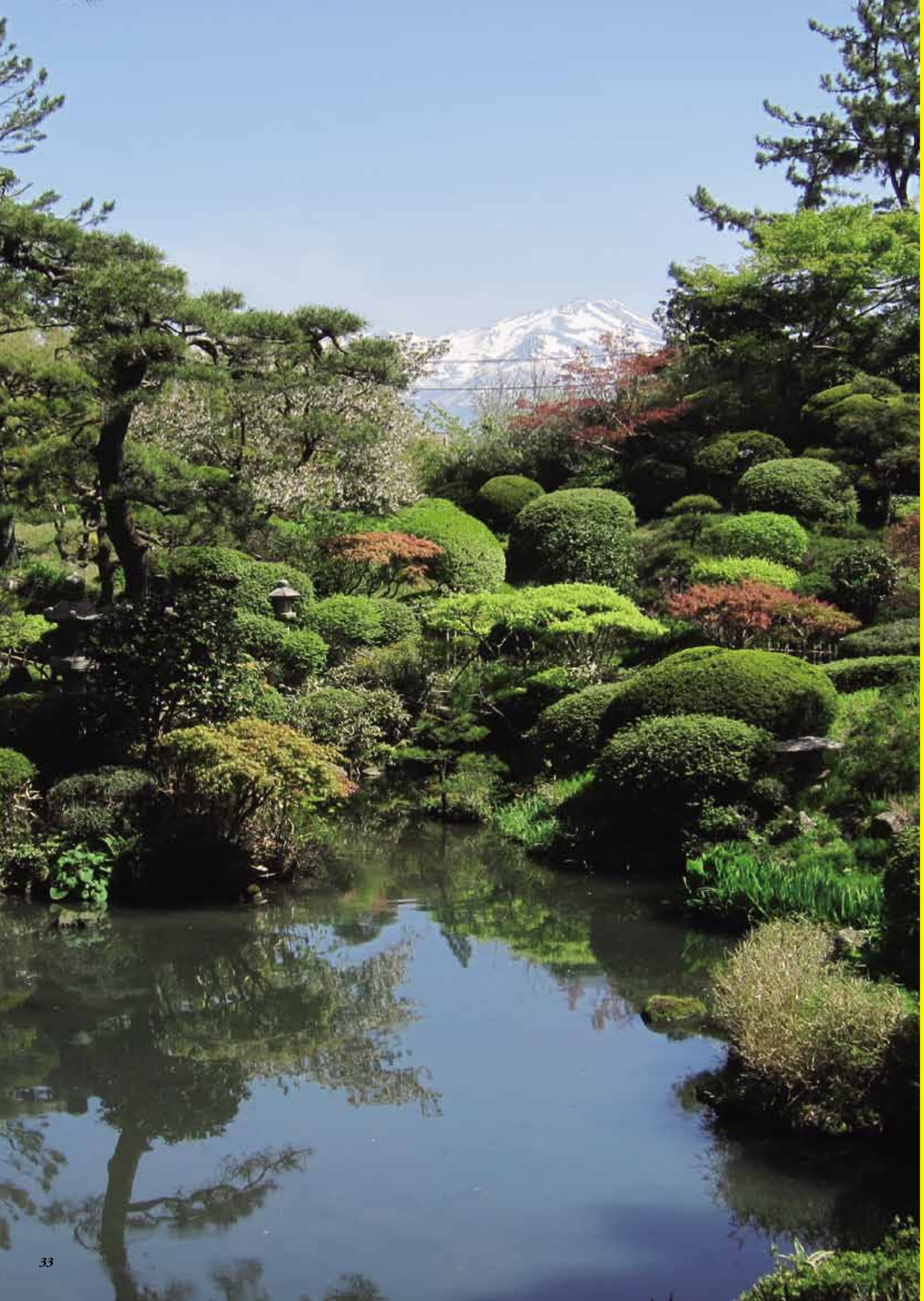
福井県小浜市

福井県敦賀市

京都府宮津市

鳥取県鳥取市

島根県浜田市



鶴舞園（本間美術館）は、本間家４代光道が、鳥海山を借景に北前船で運ばれた各地の銘石で作った池泉回遊式庭園

荒波を越えた異空間

「みちのく丸」に乗り込みましょう。
ギギギギッと、夢が動き出す音が聞こえます。

Noheji-machi

青森県

野辺地町

野辺地は江戸時代に盛岡藩の湊町として発展し、領内の大豆、銅（尾去沢銅山）、鰯〆粕などの物資が、西回り航路により蝦夷、北陸、瀬戸内海、関西などの湊町に積み出しされていました。当時の湊には七百石から千二百石の船がひしめき、町には堂々たる大店をかまえる豪商が軒を並べていたとか。野辺地町立歴史民俗資料館にはそれら北前船による航海、交易に関する海運資料が数多く保存されています。

野辺地漁港を右手に見る浜辺は公園として整備され、「浜町の常夜燈」が建っています。文政10年（1827年）に野辺地の廻船問屋野村治三郎によって建てられたものです。公園内には、復元北前型弁才船「みちのく丸」が陸揚げされており、期間限定で船内を見ることができます。「みちのく丸」は日本古来の和船の建造技術や歴史を後世に伝えるために、船大工16名によって平成17年に完成しました。全長はなんと32m、帆柱までの高さが28mあり、実際に船に乗り込むとその大型木造船の迫力に圧倒されます。

①縄文くらら（国重文）　縄文時代後期の板状（ばんじょう）立脚土偶。二本足で立つ姿から、アニメ「アルプスの少女ハイジ」で有名なフレーズ「クララが立った」を意識した愛称（野辺地町立歴史民俗資料館所蔵）。

②旧野村家住宅離れ（行在所）　豪商野村治三郎が、私財を投じて建築。庭に面した座敷には書院と地袋・天袋付き床脇のついた床の間があります。

③野辺地駅前「蔦屋」かき揚げ天丼　寿司ネタのホタテ、エビ、イカのかき揚げ天丼はかなりのボリューム。野辺地駅前です。

④GARDEN CAFE　古来から野辺地町で親しまれている、かわらけつめい茶を使ったラテ、ワッフル（写真）、スコーンなどのメニューが豊富にそろいます。

空浮かぶ能代の「顔」

能代の空に船から見える「あっかんべー」。
一度みたら忘れられません。

Noshiro-shi

秋田県

能代市

米代川河口に位置する能代は流域からの金銀銅や木材、米などが運ばれ交易地として栄えました。特に注目を浴びたのが秋田杉で、文禄2年（1593年）、豊臣秀吉が朝鮮半島へ渡る大安宅船の建造のため、領主である秋田実季が船1艘分の秋田杉を送りました。伏見築城ではさらに大量の秋田杉が求められ、太閤板と呼ばれました。そして時代とともに生産量も増加し東洋一の「木都」と呼ばれるほどでした。

北前船の灯台代わりにも使った「能代凧」は、北前船の船乗りたちが腹に顔を描いた踊りが起源といわれています。明治20年（1887年）創業以来、130年以上続く「北村凧提灯店」では様々なデザインの凧を製作していますが、なかでも「あっかんべー」と舌を出した男女の「べらぼう凧」は一目見たら忘れない、インパクトのあるデザインです。「男べらぼう」は頭に芭蕉の葉っぱが描かれ、「女べらぼう」の頭には牡丹の花が描かれており、この舌を出した絵柄は魔除けの意味が込められています。

①熊谷長栄堂　北前船に乗っていた京都の職人が製法を伝授した「東雲（しののめ）羊羹」。以来180年に渡って愛されています。

②天洋酒店　店主が目利きした秋田の日本酒をラインナップ。地元秋田のお酒について、愛情たっぷり優しく面白く解説してもらえます。

③金勇（かねゆう）　天然秋田杉をふんだんに使用し、職人の技の粋を集めて建てられた木都能代の名にふさわしい旧料亭。見学と食事ができます。

④能代七夕「天空の不夜城」　巨大な鯱（しゃち）を冠した城郭型灯籠。1800年代に運行されたと伝えられ、1世紀の時を超え復活しました。絢爛豪華な大灯籠「愛季」（高さ約24.1m）や「嘉六」（高さ約17.6m）が、太鼓、笛とともに街中を練り歩く姿は見逃せません。

秋田美人をつくる酒

べっぴんさんをつくる秋田の酒蔵は商い上手
飽きっぽいあの娘も惚れ込む、酵母のささやき。

Akita-shi

秋田県
秋田市

秋田杉や米など、特産品を運び出す港として栄えた土崎。米以外にも多くの産物が集まるこの港は、北前船を呼び寄せました。19世紀初期、土崎へ入港する船は年間6百艘を超え、12軒の回船問屋がにぎわいました。土崎から出る荷物は、農産物や海産物に秋田杉、これに対して入ってきたのは、自給できない木綿、古着、塩、砂糖、紙などでした。

嘉永5年（1852）、幕末動乱の時期に創業した秋田を代表する新政酒造。酒蔵の名前の由来は、「厚き徳をもって新しい政（まつりごと）をなす」から。日本酒を作るのに必要な酵母でも、「6号酵母」の魅力をダイレクトに表現することを目指して醸造されたラインがこの「NO・6」。中でも最上級モデルのX-Typeは、「eXcellent」を意味するこの酒蔵を代表するモデルです。磨きこまれた米を用いて、より品格ある仕上がりが特徴。6号酵母の清楚にして力強い存在感を最もビビッドに感じ取れる1本です。

①**秋田県立美術館**　目玉は、世界的な画家、藤田嗣治が昭和12年当時の秋田を描いた幅20mの大壁画「秋田の行事」。螺旋階段、開放感あふれるラウンジなどの見どころも。©Photo by Shigeo Ogawa

②**あきた文化産業施設松下**　旧割烹「松下」をリノベーションした荘厳さと新しさが見事に融合した空間、秋田の銘酒や甘味を堪能。あきた舞妓がお出迎え。

③**土崎神明社祭の曳山行事**　ユネスコ無形文化遺産に登録された曳山行事。戻り曳山で奏でられるあいや節は、北前船により伝えられたハイヤ節が起源とされています。

④**地蔵院 虚空蔵尊堂**　日和山だったとされている場所で、石灯籠や百度石などが残ります。

北の夏を告げる氷

独特な食感に味わい深いミルクとシロップ。
地域に愛される由利本荘の夏の味。

Yurihonjo-shi

秋田県
由利本荘市

江戸時代、由利本荘市を流れる子吉川河口に亀田藩の石脇湊と矢島藩・本荘藩の古雪湊が川を挟んで整備されました。石脇湊は、亀田藩の重要な湊として栄え、廻船問屋や旅館・料理屋が軒を連ね、花柳街の華やかさとともに、賑わいのある町並みを作り出しました。北海道からはニシンやコンブなどの海産物が、北陸・山陰・大阪など上方からは塩・木綿・紙・かさ・瓦・蝋などが運び込まれてきました。古雪湊は、「廻船問屋十人仲間」と称された本荘藩公認の株持ち問屋が10軒あり、船乗りのための旅館街や花柳街もありました。

羽後本荘（うごほんじょう）駅の近くにある尾留川（びるかわ）氷店の夏季限定「かき氷」。色とりどりのカラフルな氷の花たちが大人気です。定番の「いちごミルク氷」「あずきミルク氷」、「レモン氷」から、チョコ、グレープ、オレンジなど。かき氷を固めて丸く掬った氷の塊が三つ。それがシロップで味付けされ、仕上げにミルクがとろり。開店して陽がのぼるにつれ、老若男女、次々とお客さんが訪れる様子は毎年の夏の風物詩です。

①**本荘ごてんまり**　由利本荘を代表する手工芸品で、三方にさがる房が特徴。色鮮やかな糸が紡ぎ出す伝統の美です。

②**齋彌（さいや）酒造店**　明治35年の創業より、「雪の茅舎」などの名酒を世に送り出してきた酒蔵。当時のまま残る、店舗や蔵、住宅など11棟の和洋折衷建築（登録有形文化財）もみどころです。

③**新山神社**　船乗りたちが日和をみた場所。真冬の奇祭として全国的に有名な伝統行事「新山神社裸参り」が毎年行われています。

④**本荘刺し子**　北前船で伝わった貴重な木綿を大切に補強するため、そして保温性能を高めるために刺繍を施してつくられた刺し子の幾何学模様。

北の京文化

「ほんまに酒田はよい港、繁盛じゃおまへんか」目にも艶やかな京文化、運んできたのは北前船。

Sakata-shi

山形県 酒田市

江戸時代、「西回り航路」によって繁栄を極めた港町。酒田からは米以外にも出羽の紅花を積み、帰り荷は、その紅花で染めた京友禅やひな人形など、京の文化を運んできました。井原西鶴の『日本永代蔵』で「北の国一番の米商人」と描かれた鐙屋、自ら北前船交易に乗り出して日本一の大地主になった本間家などの屋敷が現存する酒田には、上方文化の雅な風情が今も色濃く残ります。

「舞娘茶屋　雛蔵畫廊　相馬樓」は酒田で江戸時代から続いた料亭「相馬屋」を修復、1階は20畳の「茶屋くつろぎ処」、2階の大広間は舞娘さんの踊りとお食事を楽しめる演舞場。酒田で「舞妓」を「舞娘」と呼ぶのは、宴席での「芸」だけでなく「その場を華やかにする舞う娘」という意味も込められています。壁から市松模様状の畳まで、紅色に染められた大広間に響き渡る艶やかな歌声と三味線の音色。雅やかな舞い姿に心まで紅色に染められて。江戸時代から大切に守られてきた酒田の伝統が、今も目の前でいきいきと舞うたびに、見る者の心も舞い上がるのです。

①庄内刺し子　日本三大刺し子のひとつ。藍染の木綿布に白い木綿糸で差し込まれる、緻密で可愛らしい紋様は、丁寧な手仕事ならではのぬくもりを感じさせます。

②ケルン　カクテル「雪国」が生まれたこちらのお店は、昼は喫茶店、夜はバーとして営業。レシピを考案したマスター自らが振ってくれるシェーカー姿をぜひ。

③傘福　山形県酒田市周辺で飾られるつるし飾り。北前船によって伝えられたものと考えられている

④日和山公園　寄港地には欠かせない方角石や日本最古級の木造灯台、千石船があり、往時の名残りを忍ばせています。（写真提供：酒田観光物産協会）

日和山でカフェ

日和山からコーヒー片手に沖ながむれば船の帰りを待ちわびる、娘の身にならしゃんせ。

Niigata-shi

新潟県 新潟市

２０１９年1月に開港１５０周年を迎える新潟港は、日本海を行く北前船などの回船や川舟が集まる町として栄えました。港に通じる小路が随所に延び、通りには広大な商家や船主の屋敷が建ち並びます。京など遠方が運んだ文化の影響も残り、民謡「佐渡おけさ」もその一つ。北前船はこの地にたくさんの富と繁栄をもたらしました。

江戸時代、信濃川河口の港を見渡す砂丘の丘で、新潟の町で一番の高台だった日和山。この山はかつて水先案内の地であった、新潟市を代表する史跡スポットです。標高12.3メートルの山の中腹（五合目）にあるのが、黒塀と白壁のコントラストが印象的な「日和山五合目」。こちらでは、コーヒー好きな店主のこだわりが詰まった「日和山ブレンド」とスイーツが楽しめます。特注もなかの皮に牛乳ベースの手作りアイスが詰まった「日和山方角石 アイスもなか」はイチオシ。冬は、自家製の厚切り食パンの中に、発酵バターで作ったホワイトソースのグラタントーストでほっこり、あったまって。

①ネルソンの庭　旧新潟県副知事公舎をリノベーションした、美しいレストラン。地元産の食材をいかしたイタリアンが食べられます。

②ぬったりテラス商店街　昔ながらのレトロな雰囲気が残る商店街に、雑貨、パン屋、カフェ、看板ネコちゃんがいるオフィスなど、女子のハートをくすぐるショップが並びます。

③古町糀製造所　銀座でおむすび屋を営んでいた店主が、新潟の味噌蔵や酒蔵を訪ねるうち、「糀」の魅力にはまってオープン。糀甘酒や糀スイーツなど発酵好きにはたまらないお店。

④旧齊藤家別邸　新潟の砂丘地形を活かした回遊式庭園と、屋敷が一体となったこちらの邸宅は、手すりや床の間の棚など細部までこだわったモダンな造り。

長寿伝説の宿

器量良し、気立て良しの美魔女「八百比丘尼（やおびくに）」。伝説の地で、永遠の美と若さを授かりましょう。

Nagaoka-shi

新潟県 長岡市

江戸時代の寺泊は、海上交通の要として栄え、本州から最短距で佐渡島に渡れる地としても知られました。北前船がもたらした富により、多くの人々が暮らし、海沿いには集落が作られました。寺泊はその名の示す通り、由緒ある多くの寺が建ち、古い歴史と美しい自然が調和する「日本海の鎌倉」とも呼ばれており、小路が入り組んだ独特の町並みが特徴です。

遠浅の寺泊野積海水浴場まで5分の好立地にある茅葺きのお宿「まつや」。食事処のダイニングは梁を張り巡らせた天井、囲炉裏が残り、ノスタルジックな古民家の雰囲気が味わえます。こちらでは新潟名物の漁師鍋「番屋鍋」をぜひ。この野積の地は、長寿伝説「八百比丘尼（やおびくに）」伝説で知られ、禁断の人魚の肉を食べて８００歳まで生きたとされる尼さんの伝説が残ります。器量良しで気立ても優しく、30回も嫁入りしたという「八百比丘尼」。その容貌は５００歳で出家した際も、17歳の時のままの美しい娘だったそうです。

①②和島トゥー・ル・モンド　築85年の廃校になった小学校を活用した完全予約制の「Bague（バーグ）」は、この地で採れる旬の食材を使った五感で楽しむフレンチ。ワインに合うパン屋も併設。最も食べ頃の時に、農家さんが収穫した野菜の美味しさは感動もの。舌をうならせる一皿は、生産者、シェフ、サービス、すべての技が一体となった「本物の物語」から生まれます。

③④白山媛神社　収蔵された五十二枚の船絵馬は、北前船の歴史を知る貴重な資料。船の構造、乗組員などが描かれ、奉納の時期や奉納者が記されています。

「ここで歌いたい♪」

高田世界館の扉を開けて一歩足を踏み入れるとみんなそう叫ぶのです。

Joetsu-shi

新潟県 上越市

直江津（今町湊）は、室町時代に成立した日本最古の海洋法規集である「廻船式目」において、当時の日本で十を数えた大きな港を表わす三津七湊（さんしんしちそう）の一つに名を連ねていました。北前船が就航した江戸時代には、高田藩の外港として、各地の港から運ばれてきた塩や砂糖、茶、塩魚等を城下町高田や頸城郡（くびき）内、信濃へ運び出すための受入港として地域の発展を支えました。

高田市内に現存する雁木の総延長は日本一の長さ。映画「ふみ子の海」のロケ地としても使われました。その雁木通りにある「高田世界館」は１９１１年（明治44年）に開業し、今でも上映を続ける現役の映画館です。フィルム映写室、桟敷席、木組みの天井、映画１００年の営みが建物の随所に埋め込まれていて、映画ファンならずとも魅了される空間。小泉今日子さん、泉谷しげるさんをはじめこの空間に魅入られたアーティストは多く、最近ではシンガーソングライターの青葉市子さんがステージにあがりました。雁木通り散策と合わせてお立ち寄りください。

①百年料亭 宇喜世　国登録有形文化財でもある書院造の料亭。細部に趣向を凝らした木造建築。

②雁木通り　雁木は、おもに冬季の通路を確保するために家屋の一部やひさしなどを延長したもので、豪雪地の生活の知恵です。

③能鷹　能登屋と言われた徳川時代から三百余年。松本零士氏監修「戦国のアルカディア 銘将銘酒 47 撰」新潟県代表にも選ばれている、全国でも珍しい海に一番近い酒蔵。

④猪俣美術建具店　「組子」は、日本の建具技術の最高峰。釘を一切使わずに仕上げるのが組子細工の特徴であり、そのためには 0.1mm 以下の誤差を指先に伝える技術が必要とのこと。東京「銀座 久兵衛」の内装にも用いられています。

建築学として

北前船が運んできたのは昆布だけではありません
贅を尽くした建築美の数々もそうでした。

Toyama-shi

富山県

富山市

富山湾に面した東岩瀬は、神通川河口右岸の良港であったことから、加賀藩の米倉が設けられるなど、江戸時代から明治時代初期にかけて北前船の寄港地として繁栄しました。富山からは主に米が積まれ、北海道からは昆布や肥料となるニシンが運び込まれました。それ以来、昆布は富山の食文化には欠かせない食材として根付いており、天然の生簀と呼ばれる富山湾から獲れる新鮮な魚介類と合わせ、多彩な昆布料理を味わうことができます。

北前船で巨万の富を得た北前船主が、明治初期に建てた屋敷等が旧北国街道に面して建ち並んでいます。岩瀬五大家の一つであった森家の旧屋敷では、名物館長の案内が来館者を楽しませます。オイの間の梁や川の流れを現した畳の敷き方、竜虎の鏝絵が施された土蔵の扉など、いたる所に当時の財力とその美学が見て取れます。また、リノベーションを施した酒屋やレストラン、ガラス工房、陶芸工房として現代に蘇った森家土蔵群からは、時を超えた文化の融合を感じることができます。

①旧森家住宅（東岩瀬大町通り）　通り土間に面したオイの間。囲炉裏は商談場所であったそうです。吹き抜けになった天井は井形の梁が組まれています。南北の土蔵の扉に施された漆喰の鏝絵をはじめ、随所に贅を尽くした意匠が見られます。

②昆布蒲鉾　富山市の一人当たりの昆布購入額は全国一。出汁を取るために使うほか、昆布蒲鉾、昆布締め、ニシンの昆布巻き、とろろ昆布などバリエーションに富んだ昆布料理があります。

③富岩水上ライン　環水公園から中島閘門（こうもん）を通り、港町岩瀬を結ぶ運河クルーズです。約１時間の船旅で、歴史ある運河や美しい景観を楽しむことができます。

やさしさに包まれて

このふわっふわのとろろ昆布たちが
朝、昼、晩と私をとらえて離さないのです。

Takaoka-shi

富山県

高岡市

高岡市伏木には江戸時代から大正時代にかけて、最盛期には大小30軒ほどの廻船問屋があり、北前船の寄港地として栄えました。伏木の北前船は、越中各地から集められた米を北海道や大阪まで運ぶとともに、各地で買積（かいづみ）した商品を売りさばき、加賀藩に莫大な富をもたらしたのです。また、鋳物製造が盛んな高岡で作られた「ニシン釜」や「塩釜」などの鉄製品、そして香炉・花瓶・仏具などの銅製品も、北前船で全国各地に運ばれました。高岡銅器は、伝統的工芸品として、今も高岡の職人にその技術が引き継がれています。

富山の一世帯あたりの昆布消費金額は、長い間全国トップです（総務省家計調査）。これは北前船が北海道より大量の昆布を運んできたことに関係しており、以来、昆布を多用する食文化が根付きました。中でも、とろろ昆布をまぶしたおにぎりはまさにソウルフード。市内の多くのコンビニやスーパーで売られています。高岡市にお越しの際はぜひご賞味ください。

①明治18年の全国天気図　廻船問屋出身の藤井能三が、北前船の安全確保のため、明治16年（1883年）に、全国初の私立測候所を設立しました。現在は伏木気象資料館として公開されています。

②高岡ラムネ　創業天保９年（1838年）の和菓子店・大野屋が手がけるラムネ。落雁の木型を使い、富山県産コシヒカリや国産生姜を組み合わせて、職人がひとつひとつ手作りしています。

③錫のぐい呑　近年高岡では、現代のライフスタイルに合った新たな鋳物製品が生まれ、注目されています。「能作」の曲がる錫器もその１つ。オリジナルグッズのショップやカフェを備える能作本社では、工場見学や鋳物作り体験もできます。

④雨晴海岸　「日本の渚100選」にも選ばれた白砂青松の景勝地。道の駅「雨晴―AMAHARASHI」のカフェから、美しい富山湾を一望できます。

女子的北前船モード

マリーアントワネットが見つけていたら
爆買いされていたかもしれませんね。

Komatsu-shi

石川県
小松市

歌舞伎「勧進帳」で知られる安宅（あたか）の関は、古代より日本海側の海上交通の要でした。北前船により全国から安宅に運ばれた商品は、安宅湊と内陸部を繋ぐ梯川（かけはしがわ）や前川、串川を経由して、加賀三湖である今江潟、木場潟、柴山潟を結ぶ船により、当時の小松町など南加賀に広く流通しました。移出品としては、江戸時代には米、畳表、莫座（ござ）、煎茶などが、明治時代にはその他に九谷焼、石材、銅、瓦、羽二重、小麦などが安宅から日本各地へと送り出されました。

北前船主だった瀬戸家は、幕末から明治にかけて廻船業を営み、神力丸、勢正丸、長久丸など6隻の渡海船を所有し、北海道を中心に取引を行っていました。婚礼の際には、嫁入道具の列が小松の町を練り歩き、豪華な家財道具などが披露されたそうです。きらびやかな花嫁衣装の数々、手の込んだかんざしや手鏡など、北前船時代のモードに触れることができる瀬戸家は、さながら「北前船モードミュージアム」細部にも随所に凝った造形を見ることができて興味が尽きません。

①安宅住吉神社　奥州平泉へと逃れる途中の源義経（牛若丸）と武蔵坊弁慶が安宅の関で関守の富樫に疑われながらも難を逃れたとの伝承から、難関突破に霊験あらたかとされています。

②農口尚彦研究所　現代の名工で知られる、農口尚彦杜氏の「匠の技術・精神・生き様」を次世代に継承することをコンセプトとして設立された新しいスタイルの酒蔵です。

③瀬々らぎの森の温泉カフェ La petite Porte　深い緑と川音に安らぐ田舎町の一軒家カフェで、ゆるりと一日過ごせば「心の中の小さな扉」が解放されていくのを感じられるはずです。

④洋菓子屋「YU SWEETS」　新進気鋭のパティシエが作る、甘さはそのままで糖質を約四分の一にカットした「糖質制限チョコバー」が人気です。

北前船文化論

暖簾をくぐると人に戻る
達治も順も、エッセルさんもいらっしゃい。

Sakai-shi

福井県
坂井市

三国湊の町並みは、北前船の寄港地として栄えた江戸時代からのもので、古い湊町ならではの風情が色濃く漂っています。九頭竜川沿いには、北前船を所有する廻船問屋をはじめ、町家、商家、土蔵、旧遊郭などが軒を並べ、町は大きく発展しました。格子戸が連なる町家、豪商の面影が残る歴史的建造物など、情緒ある町並みが三国湊には残っています。また、この湊はエッセル技師により、オランダの土木技術を日本海域にはじめて導入したことでも有名です。

詩人の三好達治の結婚生活を題材にした小説『天上の花』には、三国の人々の気質が丹念に描かれています。また、三国は詩人、高見順の生まれ故郷でもあります。かつて芸妓の置屋であった「魚志楼（うおしろう）」は、明治初期開業の料理茶屋です。一度座ると離れがたい味わいのあるカウンター、奥座敷へつながる廊下と中庭。そして『天上の花』さながらの仄かな艶っぽい空気。「魚志楼」は、旅人が「詩」的な気分に浸れる舞台のような場所です。

①みくに龍翔館　明治時代に三国湊の丘の上に建っていた五層八角の龍翔小学校の外観を模した博物館です。北前船に関する歴史資料を中心に、自然・文学・芸術に至るまで三国のすべてがわかりやすく展示されています。

②三国湊の町並み　情緒ある格子戸が連なる町家、豪商の面影が残る商家など、古い町並みの中に往時の賑わいを感じ取ることができます。

③みくに園三國湊店　江戸時代後期のかぐら建ての町家をリノベーションした盆栽の発信拠点。子どもから大人まで気軽に楽しめる盆栽ワークショップも開催しています。

④ IWABA CAFE　東尋坊の先端に最も近い場所にあります。運が良ければ「神の席」で絶景を。

パワースポット氣比神宮

引いた恋みくじは、「縁結び桜」に結いましょう。春になったら、恋のひと花、咲かせましょう。

Tsuruga-shi

福井県

敦賀市

古来より、富の集まる町だった敦賀。海外に対する朝廷の窓口であり、中国船が交易品を満載して訪れました。芥川龍之介の有名な小説「芋粥」の舞台はここ敦賀。江戸時代になると、北陸や東北の物資を都に輸送する中継港として大いに繁栄しました。その後、西回り航路が整備すると蝦夷地（北海道）との交易品が急増。特にニシンは輸送量が増えていきました。

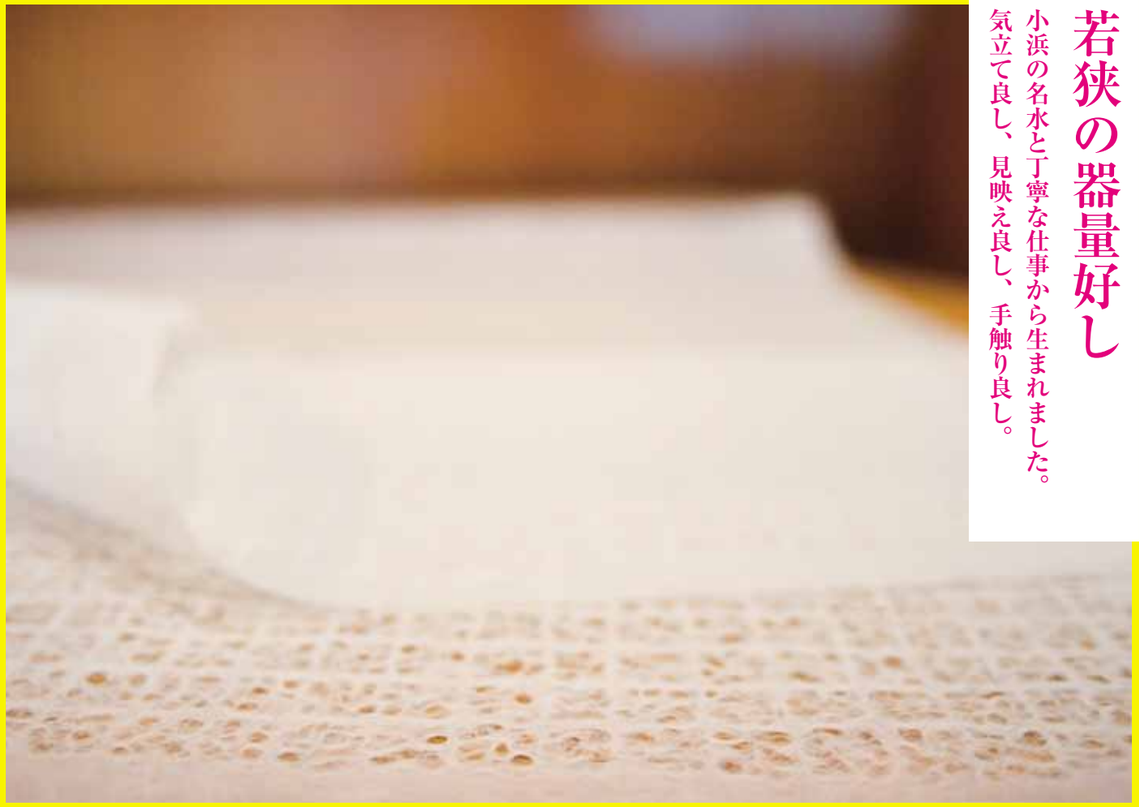
北陸道の総鎮守である氣比神宮。関東総鎮守が箱根神社と聞けば、「北陸の気比」の偉大さが分かるでしょう。高さ11mの大鳥居は春日大社（奈良）、厳島神社（広島）と並ぶ日本三大木造大鳥居のひとつ。7柱のご祭神をまつり、開運や長寿、食など様々なご利益があるパワースポットとしても有名です。松尾芭蕉も「奥の細道」の旅の途中で立ち寄り、句を詠みました。参拝の際は、恋みくじもお忘れなく。おみくじを引いたら、外拝殿に鎮座します縁結び桜に願いを込めてそっと結びましょう。そして、桜が開花する頃には、恋のひと花を咲かせましょう。

①敦賀赤レンガ倉庫　1905年、外国人技師の設計により建築された港町敦賀を象徴する建築物のひとつ。鉄道と港のジオラマ館、レストランも併設。

②キトテノワ「丁寧な暮らしと食」をテーマに、野菜と発酵食にこだわったカフェ。苺とブリュレのパフェ、ワッフルなどのスイーツも。

③旧大和田銀行本店　昭和2年に北前船主 大和田荘七によって建てられた洋風建築。室内には大理石をふんだんに使い、北陸初のエレベーターも設置。現在は敦賀市立博物館として公開されています。

④ liir　敦賀市のガラス作家・森谷和輝さんによるアクセサリーやカトラリーは。その美しい気泡や厚みのコントラストに目を奪われます。



若狭の器量好し

小浜の名水と丁寧な仕事から生まれました。気立て良し、見映え良し、手触り良し。

Obama-shi

福井県

小浜市

日本海側のほぼ中央に位置する若狭小浜は天然の良港で、御食国（みけつくに）と呼ばれ、古来より皇室・朝廷に海水産物を中心とした御食料（みけりょう）を納めていました。その道はいつしか「鯖街道」と呼ばれるようになり、海と都をつなぐ最大の物流量を誇っていました。古くから日本を代表する船持商人がいた小浜ですが、北前船の時代もその歴史を引き継ぎます。古河屋嘉太夫は丹波茶を新潟、秋田方面に売り、帰りに積んだ米や海産物を瀬戸内、大阪で販売して豪商にのし上がりました。男山区の八幡神社には嘉太夫が寄進した銅製の灯籠が今もあります。

細やかな模様の風合いが魅力の「若狭和紙」。きれいな水と精選されたコウゾやミツマタから生まれるこの手漉き和紙は、約1200年前にこの地に伝えられ、小浜藩主・酒井忠勝の治世に製造が盛んになり、現代に続いています。御食国若狭おばま食文化館2階にある若狭工房では若狭和紙のほか、若狭塗、若狭めのう細工、若狭箸など、小浜の伝統工芸を体験・購入できます。

①こころ　伝統建造物保存地区の町家をリノベーション、石窯で本格的なフランスパンを提供しています。陳列棚には先代が使用していた和菓子の木型があしらわれ、パンの香りを引き立てます。

②西組の町並み　小浜にはたくさんの町家、寺、土蔵が残っています。京都や金沢とは趣の違う若狭地方ならではの、はんなり町歩きが味わえます。

③くずまんじゅう・伊勢屋　江戸時代の天保元年よりつづく御菓子処。湧き出る地下水に浮かぶ、くずまんじゅうは小浜の夏の風物詩です。一人で10個も召し上がる強者もいらっしゃるとか。

④山川登美子記念館　明治時代の詩歌誌「明星」を代表する歌人、山川登美子の記念館。歌の師である与謝野鉄幹と歌友である鳳（与謝野）晶子は、互いに恋心を抱くことになります。

Miyazu-shi

京都府
宮津市

城下町宮津は、丹後ちりめんや海産物、醸造産業に支えられ繁栄しました。日本海を西へ東へ走る北前船の港町として産物を商う廻船問屋にはいくつもの大きな蔵が建ち並び「二度と行こまい丹後の宮津　縞の財布が空となる丹後の宮津でピンとだした」と宮津節に唄われて全国に伝わった花街・新浜がありました。また、日本三景の一つである「天橋立」を一目見ようと集まる旅人が泊まる多くの旅籠など、日本海側有数の港町として全国津々浦々に知られるところとなりました。

天橋立旅行の想い出になるように、と考案された「竹中罐詰のオイルサーディン」。天橋立をプリントした缶詰のパッケージに旅情をそそられます。そして缶のふたを開けるとオイル（綿実油）の中できらきらと光る、かたちの整ったいわしたちが、隙間なく美しく並んでいます。これらはすべて、地元の女性従業員さんたちが、手作業で加工をされているとのこと。添えられた一切れの月桂樹の葉からも、女性ならではの心づかいが伝わってきます。

①ぶどう畑のマルシェ＆レストラン（天橋立ワイナリー）　天橋立を目の前に望むぶどう畑にてワイン用ブドウの栽培と醸造を行っている天橋立ワイナリー。マルシェ＆レストランでは丹後の新鮮な食材をランチバイキングで提供しています。

②元伊勢籠（この）神社　伊勢神宮に祀られる天照大神、豊受大神がこの地から伊勢に移されたという故事から元伊勢と呼ばれる古社。

③旧三上家住宅　江戸時代に酒造業・廻船業・糸問屋等を営む商家「元結屋（もっといや）三上家」の旧住宅。外観は美しい白壁で、座敷等は非常に質の高い贅を尽くした造りです。

④由良川橋梁　長さ552メートル。海の上を走っているかのような鉄道橋を、水戸岡鋭治氏デザインの「あかまつ」、「あおまつ」、「くろまつ」が走ります。

ぽっちゃり系の私ですが

日本最古のラブストーリー生まれですから
仕事はできる方だと思います。

Tottori-shi

鳥取県
鳥取市

賀露（かろ）は鳥取平野の中央部を南北に流れる千代川と、湖山池から流れ出る湖山川が合流し、日本海に注ぐ河口に位置する港町です。古くから日本海と国府・鳥取城を結ぶ海上交通の要地として重要視されてきました。賀露神社の石灯籠には、近江屋、木屋、見世屋、濱屋、秋里屋、塩屋、油屋、居組屋、雲津屋、網師屋といった屋号を持つ賀露を拠点として活動する17人の廻船商人の名が刻まれています。

賀露から西の「白兎神社」は、日本最古のラブストーリー「因幡の白うさぎ」ゆかりの地。ワニサメを騙して皮を剥がれた白うさぎが大国主命（おおくにぬしのみこと）に助けられたのをきっかけに、絶世の美女八神姫との縁を取り持ったことから縁結びにご利益があると言われています。そのようなストーリーから、境内や白兎海岸一帯は「恋人の聖地」に認定されました。境内には可愛いうさぎたちの像が目を楽しませてくれます。恋人の聖地で、愛を誓うなら「白兎起請文（きしょうもん）」で兎の神に誓ってみましょう。約束事を書いて、白兎神社へ納めます。

①賀露神社　北前船船主が集住した賀露に鎮座する神社。尾道石工の御神灯や船絵馬・船模型、錨などが奉納されています。

②青谷和紙　1200年を超える歴史をもつ因州和紙。デザイナーとのコラボレーションによって、優しい照明プロダクトになりました。

③④鳥取民藝美術館　柳宗悦に影響を受けた吉田璋也が生み出した民藝品を展示する美術館。過去には交友のあったイギリス人陶芸家バーナード・リーチの作品の展覧会も開催されています。柳宗悦をはじめ民藝運動に興味のある方には必見の場所です。また美術館の隣は工芸品を購入できる「たくみ工芸店」、その器で鳥取の美味しいものを味わえる「たくみ割烹」が、軒を連ねています。

神様をお迎えする赤

と言っても石見国は神様だらけ。
常に赤く染めて、非日常が日常の國です。

Hamada-shi

島根県 浜田市

浜田市には、外ノ浦・瀬戸ヶ島・長浜の三つの港があり、中でも外ノ浦は北前船の西廻り航路の風待ち港および瀬戸内方面への中継点として栄えた浜田藩最大の貿易港でした。外ノ浦の特徴は、山に抱かれたわずかな平地に、廻船問屋をはじめとした小規模な集落が形成されていた点です。そして江戸時代から変わることのない、深く入り込んだ湾の風景が、寄港地の面影を今でも色濃く残しています。

石見地方で目にする赤瓦の屋根は「石州瓦（せきしゅうがわら）」と呼ばれています。石州瓦の釉薬は「来待錆石（きまちさびいし）」。来待錆石にはシリカ、アルミナが適度に含まれ、耐火度が極めて高いため1200℃以上の高温焼成が可能なことから、いて（凍害）に強いこと、そして炎が偶然に生み出した「赤褐色」の色合いが特徴です。1806年創業の亀谷窯業では、来待にこだわり続け、一枚一枚を手造り。「瓦は瓦」の伝統に徹するとともに、「瓦は瓦にあらず」との発想で、「石州瓦」の現代性を追求。観光列車「あめつち」のテーブル装飾にも採用されています。

①

②

③

④

①外ノ浦の町並み　深い入り江に沿って船主集落が展開する北前船の風待ち港。北前船との売買や水補給などが行われました。

②日和山　「方角石（日和山）」へは中国自然歩道が整備されており、深く入り込む湾の姿や男たちが活躍した日本海を眺望することができます。

③浜田市世界こども美術館　「日本海に漂う創造と美の船」が設計コンセプト。果てしない想像という海を、こどもたちは荒波を越えた北前船さながら、この船に乗って冒険に出ます。

④のどぐろあぶり丼　すっかり高級魚となったのどぐろの美味しさは脂にあります。炙ることで食べやすく絶妙の美味しさの「のどぐろあぶり丼」は、浜田漁港内にある「めし処ぐっさん」にて。

巨大市場だった瀬戸内海

広島県呉市　広島県尾道市　岡山県倉敷市　兵庫県赤穂市
兵庫県高砂市　兵庫県洲本市　兵庫県神戸市　大阪府大阪市

北海道で、肥料となるニシン粕や、食品の昆布を満載した北前船は、瀬戸内海各地で荷物を売り払いながら「天下の台所」大坂を目指しました。どんなに大量の荷物でも、売れ残ることはありません。早くから綿花、藍などの換金作物の栽培が広まった瀬戸内では、北前船がもたらす肥料がいくらでも必要だったからです。

そして昆布も、西日本の食生活には欠かせませんし、大坂で荷揚げした後、幕府会所の手を経て長崎へ運ばれ、中国へ輸出される重要な商品でした。

ニシン粕は、瀬戸内海の寄港地では争って買い求められました。そのために回船問屋では、秋になるとかなり遠くまで迎えの船を出して自分の店に呼び込みました。下津井（岡山県倉敷市）では、争奪戦が過熱しないよう問屋が協定を結び、もしも争いが起きれば、仲裁する制度を設けたほどです。

最初は無人の浜だった広島県呉市の御手洗は、風待ちの北前船が集まるようになったことから発展した港です。広島藩が港湾を整備し、「西国無双の港」と言われるまでになりました。

千石船の「一航海で利益千両」という北前船の商いは、瀬戸内海全体が巨大市場だったから成り立ったと言えるでしょう。

広島県呉市

広島県尾道市

岡山県倉敷市

兵庫県赤穂市

兵庫県高砂市

兵庫県洲本市

兵庫県神戸市

大阪府大阪市

住吉神社の常夜燈（尾道市）

潮待ち、風待ち、

〝凪〟で有名な瀬戸内海ですから時間はたっぷり。そこも稼ぎどころです。

Kure-shi

広島県 呉市

御手洗は呉市の東、瀬戸内海のほぼ中ほどの大崎下島に位置する港町です。呉市の中心から御手洗までは途中に3つの島がありますが、すべて橋で繋がれているので、瀬戸内海の美しさを堪能できる移動時間となるはずです。御手洗は江戸時代に入り、潮待ち・風待ちの良港として知られると、寄港する船が増え、急速に発展。商家、茶屋、船宿などが建ち並び賑わいました。その町並みは国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

歴史的町並みを構成する建造物のひとつ「船宿カフェ若長」。大洲藩・宇和島藩指定の船宿を改装した古民家カフェです。かつて藩の御用船が入港すれば、船員を泊めて飲食などの世話を一手に引き受けた歴史ある船宿。その2階の間から望む穏やかな海とすぐ目の前の島々は、藩指定の船宿であっただけに最高のロケーションで、特等席に間違いありません。瀬戸内海の美しい多島美を眺めながら、地元の特産物を使ったご当地スイーツやランチを味わうことができます。

①御手洗の町並み　北前船など多くの船が寄港した、潮待ち・風待ち港としての特徴を色濃く残す町並み。

②御手洗昭和館　昭和のレトロデザインのおもちゃやパッケージが展示されたミュージアム。その圧巻のコレクションに老若男女が目を奪われること間違いなし。

③薩摩藩船宿跡脇屋　薩摩藩指定の船宿を改装した建物には、広島の作家の作品や古道具が立ち並び、御手洗に受け継がれているデザインの魅力を発信しています。

④ネロリの島 Labo　御手洗からほど近い小長（おちょう）港の2階にある、地元の柑橘類をいかしたアロマの蒸留室。ブックカフェを併設しています。

時をかけるなんて

ここ尾道では、タイムリープは日常茶飯事。最近ではもっぱら自転車を使うことが多いです。

Onomichi-shi

広島県 尾道市

その停泊しやすい地形から、中世より瀬戸内海最大級の港町として発展した尾道。室町時代以降は日本最大の海賊「村上海賊」が近くの芸予諸島に現れました。彼らはいわゆる金品を奪うような海賊ではなく、通行料と引き換えに水先案内や海上警護を請け負いました。江戸中期には寄港する船がさらに増え、石細工や塩、鉄錠（かなじょう）などが尾道から各地へと積み出されていきます。なかでも良質な花崗岩の石細工は、北前船によって日本海側へと多く運ばれて行きました。

生口島（いくちじま）の中心地、瀬戸田にある「自転車カフェ＆バー 汐待亭」は、元郵便局長の旧家である貴重な建築物をリノベーションしています。「瀬戸内しまなみ海道」を行くサイクリストにとって瀬戸田は距離的にちょうど良い休憩ポイント。柑橘類のメッカとして地場産レモンやみかんのメニューで、ツーリングの疲労回復に一役買います。当時の調度品や中庭を眺めつつ、「風がおさまるまで」とつい長居してしまいそうな居心地。潮待ちならぬ、風待ちです。

①港町尾道の町並み　市街地には多くのお寺をはじめ、風情ある建物や迷い込むのも楽しい小径が多くあり、ゆっくりとした散策がおすすめです。

②工房おのみち帆布　かつて尾道で多くつくられた帆布が、現代の暮らしに合わせたデザインとなって生活を彩ります。

③ ONOMICHI U2　1943年（昭和18年）終戦間近に建てられた海運倉庫「県営上屋（うわや）2号」を改装した複合施設。自転車を部屋に持ち込めるホテルのほか、レストランやバー、ベーカリー、サイクルショップなどが入っています。

④住吉神社の力石　北前船の船主が寄進した玉垣や常夜燈が残る住吉神社では、荷物を担ぎ運ぶ仲仕（なかし）たちが力比べをした石が見られます。

私だけのブルー

瀬戸内海の光と丈夫な糸が生み出しました。
世界にひとつ、私だけのブルーが絶対見つかります。

Kurashiki-shi

岡山県

倉敷市

倉敷市には瀬戸内海を望む児島半島の先端に、岡山藩の外港として栄えた下津井、大規模な干拓によって綿花栽培と積み出しで栄えた玉島、そして、塩田から生まれる塩を生産し積み出した児島の3つの港があります。下津井、玉島では綿の栽培が盛んに行われ、そのため北前船が運ぶ肥料となるニシン粕が必要でした。玉島は綿とニシン粕の取引地として、下津井では帰り荷として綿のほかに児島の塩が積み込まれたそうです。

児島駅のほど近く、「児島ジーンズストリート」には、地元児島のジーンズメーカーのショップが集まっています。一見、北前船と関係がないように見えるジーンズですが、その昔、北前船で運ばれたニシン粕は綿花栽培に使われました。その綿花は製糸・繊維技術を発展させ、学生服などの衣料品製造へと繋がります。戦後には初の国産ジーンズを生み出し、日本のファッションを牽引するまでに成長。北の海のニシンが現代のファッションに繋がる、動く総合商社「北前船」らしい物語です。

①**旧野崎家住宅**　広大な塩田による塩づくりで財をなした「野崎武左衛門」が建てた邸宅。塩づくりにまつわる展示や当時の隆盛をうかがわせる建物や調度品は必見です。

②**倉敷生活デザインマーケット「林源十郎商店」**　本物の豊かさとは何かを真摯に問い、倉敷から発信する複合施設。暮らしの本質を探求する８店舗が入居しています。

③ **FLAT**　畳縁（たたみべり）の国内生産シェア 35%を誇る高田織物による畳縁とグッズの専門ショップ。

④**羽黒神社**　北前船の船主が玉垣や船絵馬を奉納した玉島の神社。境内には、幹が二重に結ばれた形の「むすびの松」があり、縁結びのご利益があるとされるパワースポットです。

ここが塩の道です

坂越浦に続く大道（だいどう）、
歩くだけで気持ちが上がる風格があります。

Akou-shi

兵庫県

赤穂市

瀬戸内海に面する赤穂市坂越は弧を描く特徴的な地形の坂越湾と、湾内に浮かぶ生島によって、天然の良港として古くから栄え、さらに寛文年間（1661～1673年）に開かれた西回り航路を契機として大きく発展しました。元禄4年（1691年）の改帳によると坂越浦には大型回船31艘が確認され、瀬戸内有数の回船業地となりました。赤穂の塩田で生産された塩は坂越などで北前船に積み込まれました。

かつて赤穂の塩を北前船で運ぶために賑わった坂越大道。市街地景観形成地区に指定され、都市景観大賞にも選ばれるなど、当時の坂越の町並みを、その空気ごと味わうことができます。かつて、銀行として活躍した建物を活用した観光案内所「坂越まち並み館」。慶長年間から400年続く造り酒屋の奥藤酒造は、大名の本陣に使われた由緒ある大家です。また赤穂藩の茶屋としての役割もあった「旧坂越浦会所」の2階には、赤穂藩主が立ち寄った時に使った藩主専用の部屋「観海楼」が設けられています。

①**大避（おおさけ）神社**　秋に行われる同神社の祭礼「坂越の船祭」は、瀬戸内三大船祭りの一つに数えられ、提灯に明かりを灯した十一隻の和船が生島から還幸する様子は幻想的な美しさです。

②**「忠臣蔵 純米吟醸47（キャトルセット）」**赤穂浪士四十七士にちなんで、精米 47%の純米吟醸生酒。赤穂市内唯一の酒蔵「奥藤商事」にて。

③**播磨の郷「はりまの塩味（しおみ）生大福」**やわらかいお餅に、赤穂の塩味をきかせた粒あんと生クリームを詰めた大福です。冷えたところで召し上がると美味しさが増します。

④**坂利太（さりーた）のアラゴスタ**　ナポリで古くから愛されるスイーツ、アラゴスタの専門店。

北前育ちの生え抜き

普通のミシンでは歯が立たない「極厚帆布」。規格外の発想が、規格外のビジネスを興します。

Takasago-shi

兵庫県 高砂市

工楽松右衛門のゆかりの地である高砂は加古川河口に位置し、加古川舟運と瀬戸内海運の中継地として繁栄しました。工楽松右衛門は高砂出身の江戸時代の発明家・実業家で、丈夫でしなやかな帆布「松右衛門帆」を開発し、北前船の航行性能を飛躍的に向上させ、海運業の発展に貢献しました。工楽家は近代に入って砂糖の問屋を営み、画家の棟方志功や俳人の永田耕衣などの文化人と交流を持ちました。

株式会社御影屋では、幻の帆布「松右衛門帆」を独自に再現。播州織の技法を使った独創的な織目が魅力で、他にはない松右衛門帆を力織機（りきしょっき）を使い丁寧に織り上げ雑貨小物やバッグにしています。松右衛門帆は規格外の極厚帆布「０号帆布」。普通のミシンでは縫えず、扱いも非常に難しい生地です。その厚さから織った後の染色が難しいため、糸を先染めしているそうです。それが大胆な彩りを生み、「縫いにくさ」は、その分手間と想いを込められるということ。工楽松右衛門のイノベーションが時代を超えて紡がれています。

①

②

③

④

①**高砂神社**　縁結びの象徴、相生の松が境内にあり、パワースポットとして人気です。コミカルな表情の鬼瓦が恋人たちを見守っています。

②**工楽松右衛門旧宅**　松右衛門帆を発明した工楽松右衛門の旧邸宅。外壁には大胆にも船の側板がリユースされ、組み込まれています。

③**レトロな街並み**　アニメ映画「ハウルの城」を彷彿とさせるユニークな「梅ヶ枝湯」は増築、改築を繰り返すことで、独特な造形美に昇華して道ゆく人の目を引きます。

④**ミナミのにくてん**　「にくてん」とは高砂のお好み焼で、じゃがいもと柔らかく煮込んだ牛すじ、こんにゃくが入っているのが特徴。ビールをおともに一度食べると癖になる美味しさです。

菜の花の沖では

高田屋嘉兵衛の生誕地である洲本市五色町。地元では気さくに「嘉兵衛」と呼ばれています。

Sumoto-shi

兵庫県 洲本市

洲本市五色町都志（つし）は廻船業を興し、蝦夷地開拓や日露民間外交の先駆者として活躍した高田屋嘉兵衛の生誕地です。嘉兵衛は22歳の時に兵庫へ出て拠点を構え、後に箱館（函館）に拠点を移し、幕府の御用商人となり豪商への道を歩みます。択捉島と国後島間の航路開拓や漁場を開くなど、北方の開拓者としても活躍しました。

司馬遼太郎の『菜の花の沖』では、主人公として嘉兵衛の生涯が描かれ、２０００年にはＮＨＫの連続テレビドラマとして放送されました。洲本市五色町の高田屋嘉兵衛顕彰館・歴史文化資料館「菜の花ホール」には、嘉兵衛に関する多くの資料や北前船の模型とともに、司馬遼太郎の校正入り直筆原稿の展示もあり、一見の価値があります。閲覧の後には、菜の花ホールで販売されている住吉堂本舗の「嘉兵衛餅」をお土産にいかがでしょう。あっさりした餡子がふわふわの餅で包んであり、つい２個、３個と手が伸びていきます。包装紙には嘉兵衛の船で最も有名な「辰悦丸（しんえつまる）」があしらわれています。

嘉兵衛餅

①

②

③

④

①**高田屋顕彰館**　司馬遼太郎が「江戸時代で最も偉かった人物」と評した高田屋嘉兵衛。淡路の洲本市五色町の貧しい農家の長男として生まれ、一介の船乗りから、一代で「海運王」となった彼は、日露和平の立役者の役割も果たしました。

②**高田屋商用印**　デザインがとても洗練されていて儲かりそうです。これらの印で莫大な金額の契約書が交わされたと想像します。

③**住吉神社**　住吉神社の目の前は播磨灘。「大きくなったらこの沖に千石船を並べてみせる」少年嘉兵衛はそう胸に抱いていたそうです。

④**都志八幡神社**　日口対立に巻き込まれ、ロシアに捕えられた高田屋嘉兵衛の無事の帰国を願い、嘉兵衛の弟らによって寄進された随身門があります。

嘉兵衛さん、嘉兵衛さん

目が覚めてみると嘉兵衛さんはいなかったけど相変わらず賑やかな場所でした。

イオンモール神戸南３階にて展示

Kobe-shi

兵庫県 神戸市

大阪とともに北前船の拠点港であった兵庫。兵庫津と呼ばれた港の近辺は、六甲連山によって北西の季節風が遮られ、和田岬によって西からの波浪が防がれ、さらに水深と投錨に適した海底の砂に恵まれて天然の良港が形作られていました。そのため、かねてより瀬戸内海の交通の要衝として、また、外交の窓口として歴史に名をとどめていました。さらに、北前船の時代に高田屋嘉兵衛が択捉航路を開き、北海道物産交易の基地としても大いに賑わいました。なお、幕末、諸外国より開港を求められた幕府は、あえて当時人口希薄な、東隣の神戸村を開港し、現在の神戸のモダニズム発展へとつながっていきます。

兵庫津に暮らす人々の、当時の生活の様子がうかがえる出土品がイオンモール神戸南３階に展示されています。兵庫津は商人の町らしく、硯や様々な形の水滴などの文房具もたくさん見つかっています。また土人形やミニチュア土器などは、子どものおもちゃやお守りなどの用途に使われていたようです。

①**樽屋五兵衛**　江戸時代からの老舗商家の流れをくむ海産物問屋。新発売の「昆布でチップ」は北海道の天然昆布を使ったヘルシーなおやつ。

②**高田屋嘉兵衛本店跡地**　北前船で財をなした高田屋が商売の拠点をおいた店舗跡。

③**兵庫運河**　当時の兵庫津の形が残っています。船の避難所として建設されたのをきっかけに、兵庫運河は難所の和田岬のバイパスになりました。

④**まちなか倶楽部（高田屋嘉兵衛資料館）**　西出・東出まちづくり協議会がボランティアで運営しています。高田屋嘉兵衛をはじめとした兵庫津地域に関する豊富な資料が展示されています。（開館日：毎週水曜日13時～15時）

Osaka-shi

大阪府 大阪市

北前船の起終地となった大坂は、古来から国際港「難波津」、「住吉津」を擁し、朝鮮半島や中国大陸など海外に開かれていました。北海道や日本海沿岸の地域との間を結ぶ北前船、江戸との間を結ぶ菱垣廻船をはじめ、京都との間を結ぶ三十石船や伏見船など多くの船が往来し、出船千艘入船千艘の活況を呈していました。「菱垣新綿番船川口出帆之図」では、安治川沿いに建ち並ぶ蔵の白壁、吹流しと昇り旗を掲げた小舟や水夫達の華やかな風景が描かれています。

古代より航海の守護神として崇敬をあつめた住吉大社は、大坂に着いた北前船主が必ず参詣する重要な場所でした。縁結びの神様も鎮座しており、写真の「侍者人形」は、この住吉大社境内の侍者社という神社で授かり、背中に願いを書いて奉納することで縁結びをお祈りします。この侍者社のご祭神は１８００年前の神主を務めていたタモミノスクネとイチヒメノミコトという神様で、夫婦円満・所願成就の神様として多くの信仰を集めています。

①

②

③

④

①**住吉大社　石灯籠群**　境内に約600基ある住吉大社の石灯籠はまさに圧巻。廻船問屋のほか、様々な業種の商人から寄進され、信仰の深さが伺えます。

②**住吉大社**　全国に2,300ある住吉神社の総本社で、昔から「すみよっさん」と呼ばれ、厚い信仰をあつめています。

③**串かつ**　大阪といえば串かつ。揚げたての様々な食材が口の中で踊ります。もちろんソースの二度漬けは禁止です。

④**天保山観覧車**　天保山は近づく船にとっての良い目印になりました。観覧車からは安治川河口と天保山を見渡すことができます。

恋からお願いします

ずらりと並んだ成就のオールキャストかわいいお顔のパワーアイコン。

構成文化財一覧表

【北海道 小樽市】
日和山
旧北浜地区倉庫群（旧右近倉庫、旧広海倉庫、旧増田倉庫、旧大家倉庫、旧小樽倉庫）
旧魁陽亭
住吉神社奉納物
船絵馬群（恵美須神社、龍徳寺金比羅殿）
北前船関係古写真
西川家文書

【北海道 石狩市】
旧長野商店
割烹金大亭
古潭神社御神輿
厚田神社船絵馬

【北海道 松前町】
福山波止場
沖口役所跡
松前屏風
松本家土蔵及び松本家資料
福山城下町遺跡
龍雲院
松前藩主松前家墓所
松前沖揚げ音頭
難船図絵馬
松前祇園ばやし

【北海道 函館市】
函館山
箱館奉行所跡
高田屋屋敷跡
高田屋本店跡
厳島神社

【青森県 野辺地町】
浜町の常夜燈
末社金刀比羅宮本殿
旧野村家住宅離れ（行在所）蔵付き
北前船関係資料群
北前船船乗りの墓及び擬宝珠
北前船が運んだ石造物
のべじ祇園まつり
河原決明の茶がゆ

【青森県 鰺ヶ沢町】
日和山
城の下の荷揚げ場跡
尾崎酒造酒蔵
丸二塩屋資料
鰺ヶ沢町絵図
正調鰺ヶ沢甚句
鰺ヶ沢白八幡宮の大祭行事
白八幡宮絵馬群
白八幡宮玉垣
白八幡宮御神灯
常灯碑
願行寺
来生寺

【青森県 深浦町】
日和見山跡
円覚寺奉納海上信仰資料
円覚寺宝篋印塔
岩崎武甕槌神社船絵馬
春日神社「鮫漁絵額」
港の一本杭
岩崎武甕槌神社石鳥居
行合崎
鳥居崎

【秋田県 能代市】
八幡神社御神燈
日和山（日和山方角石）
光久寺（挽き臼の墓）
恵比寿神社船絵馬
能代舟唄
能代凧（べらぼう凧）

【秋田県 男鹿市】
田沼家土蔵
船鑑札
真山神社五社殿落書き（墨書）
海難慰霊碑
双六の船絵馬
船川節（秋田船方節）
鈴木重孝自筆本「絹篩」
碇

【秋田県 秋田市】
高清水公園の五輪塔
秋田街道絵巻
秋田風俗絵巻
金刀比羅神社狛犬
寶塔寺石造り五重塔
土崎神明社祭の曳山行事
大正寺おけさ
昆布の手すき加工技術

【秋田県 由利本荘市】
古雪の町並み
新山（日和山）
新山神社奉納物
石脇湊の御番所跡
石脇絵図
石脇の町並み
稲荷神社
石脇さんぶつ
本荘八幡神社奉納物
松ヶ崎八幡神社石製狛犬
本荘郷土資料館資料群
宮下神社の船絵馬

【秋田県 にかほ市】
象潟郷土資料館北前船関係資料
由利南部海岸図
沖の棒杭
塩越湊周辺の船絵馬群
金刀比羅神社のまげ絵馬
日枝神社の山王鳥居と山王猿像
飛良泉本舗
高昌寺弁天丸
にかほ市内の方角石

【山形県酒田市】
日和山公園
旧鐙屋
本間家本邸
山王くらぶ
相馬屋主屋
本間氏別邸庭園（鶴舞園）
塞道絵幕（大壽和里大祭事）―酒井侯御安堵祝宴―
酒田山王祭祭礼用亀笠鉾
酒田袖之浦・小屋之浜之図
雛めぐり
山居倉庫

【新潟県 新潟市】
日和山
旧齋藤家別邸（旧齋藤氏別邸庭園）
燕喜館（旧齋藤家住宅）主屋
旧小澤家住宅
日本舞踊市山流（古町芸妓）
湊稲荷神社願懸け高麗犬
新潟まつり（湊祭・住吉祭）
新潟奉行川村修就関係資料
大船絵馬
金刀比羅神社難船彫刻絵馬
金刀比羅神社奉納模型和船

【新潟県 佐渡市】
清九郎家
三角家
宿根木白山神社石鳥居
木崎神社（本殿）
舟つなぎ石
念仏橋及び石橋
小木湊古絵図
佐渡の大神楽舞楽

【新潟県 長岡市】
寺泊港の集落
寺泊おけさ
聖徳寺庭園
白山媛神社船絵馬

【新潟県 上越市】
米山
直江津の町並み
旧直江津銀行
直江津の海上信仰資料
北前船関連資料
住吉神社奉納物
金刀比羅神社石灯籠
八坂神社
直江津・高田祇園祭の御旅所行事と屋台巡行
米大舟

【富山県 富山市】
旧森家住宅
旧馬場家住宅
西岩瀬諏訪社の大けやき
岩瀬まだら

【富山県 高岡市】
旧秋元家住宅（高岡市伏木北前船資料館）
旧伏木測候所庁舎・測風塔（高岡市伏木気象資料館）
伏木神社
伏木神社春季例大祭の祭礼行事
伏木帆柱起し祝唄
勝興寺唐門
吉久の町並み（能松家、有藤家、丸谷家他）
菅野家住宅
高岡鋳物の製作用具及び製品

【石川県 輪島市】
輪島市黒島地区伝統的建造物群保存地区
旧角海家住宅
黒島天領祭
北前船絵馬群
イナウ奉納額
住吉神社石造鳥居
日和山の方角石
能登のまだら

【石川県 小松市】
安宅住吉神社
長沖金剛・蔵
沖家
瀬戸家
旧米谷銀行（吉祥庵）
河道跡
安宅住吉神社船絵馬
起舟祭
安宅まつり

【石川県 加賀市】
加賀市加賀橋立伝統的建造物群保存地区
旧酒谷長兵衛家住宅
北前船主屋敷蔵と六園（旧酒谷長一郎家住宅）
忠谷家住宅
三国仏壇（冬仏壇 夏仏壇）附仏具
類一式
瀬越町白山神社所蔵船絵馬
出水神社
福井別院 橋立支院
山中節

【福井県 坂井市】
旧岸名家住宅
魚志楼（松崎家住宅）
滝谷寺
三國神社随身門

新保春日神社
大湊神社
三国港（旧阪井港）突堤
日和山
北前船古文書群
北前船船絵馬群
三国浦絵図
越前三国湊風景之図
三国仏壇
三国箪笥（船箪笥）
笏谷石関連古文書群
三國神社例大祭（三国祭）と山車屋台
なんぼや踊り唄
いざさき
三国節

【福井県 南越前町】
右近家住宅
旧右近家住宅 西洋館
中村家住宅
船絵馬仁恵丸

【福井県 敦賀市】
鰊蔵
洲崎の高燈籠
旧大和田銀行初代本店
疋田舟川
昆布の手すき加工技術

【福井県 小浜市】
古河屋別邸・庭園
旧料亭酔月
旧料亭蓬嶋楼
旧旭座
八幡神社奉納物
広嶺神社奉納物
宗像神社奉納物
旧小浜港の町並み
若狭瓦だるま窯
奉納船と神体船
北前船古文書群

【京都府 宮津市】
旧三上家住宅
日吉神社
和貴宮神社の玉垣
由良金毘羅神社
新浜の町並み（花街）
由良の船絵馬群
三上家文書
加藤家文書
宮津おどり

【大阪府 大阪市】
住吉大社
住吉大社の石灯籠群

【兵庫県 神戸市】
神戸大学海事博物館北前船収蔵資料
敏馬神社「弁財船絵馬」
神戸海洋博物館北前船収蔵資料
高田屋嘉兵衛献上灯籠
苦楽松右衛門の墓
高田屋嘉兵衛本店跡地
舞子延命地蔵（たたき地蔵）

【兵庫県 高砂市】
工楽松右衛門旧宅
高砂堀川遺跡
高砂地区歴史的景観形成地区
常夜灯（高砂神社）

【兵庫県 新温泉町】
日和山
為世永神社
諸谷山龍満寺
東藤田家母屋
中藤田家母屋
道盛の母屋
北前船係留杭跡
為世永神社例祭（祇園祭・麒麟獅子舞）
為世永神社船絵馬
北前船航路図
北前船名額

【兵庫県 赤穂市】
坂越の町並み
旧坂越浦会所
大避神社奉納物
黒崎墓所
生島
船箪笥銀定法
坂越の船祭

【兵庫県 洲本市】
都志八幡神社奉納物
高田屋嘉兵衛邸宅跡
都志の町並み
高田屋関連資料群
都志八幡神社御船歌

【鳥取県 鳥取市】
賀露神社
因州高草郡加路湊絵図
賀露神社春季祭礼行事
上小路神社
賀露港の町割り
鳥ケ島
気多郡芦崎夏泊両浦湊絵図
湊神社の奉納物
芦崎の町並み
津出し路地

【島根県 浜田市】
外ノ浦の町並み
住吉神社
若胡子屋跡
地区
吾妻山
日和山方角石
自凌浦からの唐蘆浦なが浦尻浦浜長浦尻浦湾岸絵図
諸国御客船帳
千砂子波止と高燈籠
恵美須神社

一般公開されている北前船関連施設

【北海道】
小樽市総合博物館＝小樽市手宮
☎ 0134・33・2523
小樽市総合博物館・運河館＝小樽市色内
☎ 0134・22・1258
鰊御殿「旧田中家番屋」＝小樽市祝津
☎ 0134・22・1038 ＝冬季休館
道の駅石狩「あいろーど厚田」＝石狩市厚田区厚田
☎ 0133・78・2300 ＝休館日：12月29日～翌年1月3日
よいち水産博物館・余市町歴史民俗資料館＝余市郡余市町
☎ 0135・22・6187 ＝月曜休館
旧余市福原漁場＝余市郡余市町
☎ 0135・22・5600 ＝月曜休館
八雲町熊石歴史記念館＝八雲町熊石平町
☎ 01398・2・2200 ＝月曜休館
旧中村家住宅＝檜山郡江差町
☎ 0139・52・1617 ＝冬季のみ月曜休館
旧檜山爾志郡役所（江差町郷土資料館）＝檜山郡江差町
☎ 0139・54・2188 ＝冬季のみ月曜休館
横山家＝檜山郡江差町
☎ 0139・52・0018 ＝冬季は要予約
松前城資料館＝松浦郡松前町
☎ 0139・42・2216 ＝冬季休館
松前藩屋敷＝松浦郡松前町
☎ 0139・43・2439 ＝冬季休館
箱館高田屋嘉兵衛資料館＝函館市末広町
☎ 0138・27・5226 ＝木曜休館

【青森県】
佐井村海峡ミュージアム＝下北郡佐井村（連絡先は観光協会）
☎ 0175・38・4515 ＝月曜休館
野辺地町立歴史民俗資料館＝上北郡野辺地町
☎ 0175・64・9494 ＝月曜休館
市浦歴史民俗資料館＝五所川原市十三土佐
☎ 0173・62・2775
円覚寺寺宝館＝西津軽郡深浦町
☎ 0173・74・2029
深浦町「風待ち館」＝西津軽郡深浦町
☎ 0173・74・3553

【秋田県】
本荘郷土資料館＝由利本荘市石脇
☎ 0184・24・3570
象潟郷土資料館＝にかほ市象潟町
☎ 0184・43・2005 ＝月曜休館
仁賀保勤労青少年ホーム＝にかほ市平沢
☎ 0184・35・4711 ＝月曜休館

【山形県】
旧青山本邸＝飽海郡遊佐町比子青塚
☎ 0234・75・3145 ＝月曜休館
旧鐙屋＝酒田市中町
☎ 0234・22・5001 ＝冬季のみ月曜休館
酒田市立資料館＝酒田市一番町
☎ 0234・24・6544 ＝冬季のみ月曜休館
本間家旧本邸＝酒田市二番町
☎ 0234・22・3562 ＝ 12 月中旬～ 1 月下旬休邸
致道博物館＝鶴岡市家中新町
☎ 0235・22・1199 ＝冬季のみ水曜休館

【新潟県】
相川技能伝承展示館＝佐渡市相川坂下町
☎ 0259・74・4313
小木海運資料館＝佐渡市小木町
☎ 0259・86・3191
佐渡国小木民俗博物館・白山丸展示館＝佐渡市宿根木
☎ 0259・86・2604
胎内市文化財収蔵庫＝胎内市桃崎浜（連絡先は胎内市学校教育課）
☎ 0254・43・6111 ＝要予約
金刀比羅神社奉納模型和船収蔵庫＝新潟市中央区西厩島町
☎ 025・223・3573 ＝要予約
新潟県立自然科学館＝新潟市中央区女池南
☎ 025・283・3331
新潟市歴史博物館みなとぴあ＝新潟市中央区柳島町
☎ 025・225・6111 ＝月曜・祝日の翌日・年末年始休館
白山媛神社船絵馬収蔵庫＝長岡市寺泊大町
☎ 0258・75・3412 ＝要予約
越後出雲崎天領の里＝三島郡出雲崎町尼瀬
☎0258・78・4000 ＝第 1 水曜休館
能生白山神社宝物殿＝糸魚川市能生
☎ 025・566・3465 ＝ 1 週間前に要予約
マリンミュージアム海洋＝糸魚川市能生小泊
☎ 025・566・3456 ＝冬季休館

【富山県】
北前船回船問屋「森家」＝富山市岩瀬大町
☎ 076・437・8960 ＝月曜休館
水橋郷土資料館＝富山市水橋舘町
☎ 076・479・0081 ＝月曜休館
新湊博物館＝射水市鏡宮
☎ 0766・83・0800 ＝火曜休館
大楽寺＝射水市立町
☎ 0766・82・3016 ＝要予約
高岡市伏木北前船資料館（旧秋元家）＝高岡市伏木古国府
☎ 0766・44・3999 ＝火曜休館
高岡市万葉歴史館＝高岡市伏木一宮
☎ 0766・44・5511 ＝火曜休館
高岡市立博物館＝高岡市古城
☎ 0766・20・1572 ＝月曜休館
高岡市鋳物資料館＝高岡市金屋町
☎ 0766・28・6088 ＝火曜休館

【石川県】
旧角海家住宅＝輪島市門前町黒島町
☎ 0768・43・1135 ＝月曜休館
上時国家＝輪島市町野町南時国
☎ 0768・32・0171
輪島市黒島天領北前船資料館＝輪島市門前町黒島町
☎ 0768・43・1193 ＝月曜休館
石川県銭屋五兵衛記念館＝金沢市金石本町
☎ 076・267・7744 ＝冬季のみ火曜休館
石川県立歴史博物館＝金沢市出羽町
☎ 076・262・3236
大野からくり記念館＝金沢市大野町
☎ 076・266・1311 ＝水曜休館
武家屋敷跡加賀藩千二百石野村家＝金沢市長町
☎ 076・221・3553
呉竹文庫＝白山市湊町
☎ 076・278・6252 ＝月曜休館
勧進帳ものがたり館＝小松市安宅町
☎ 0761・21・6734 ＝水曜休館
小松市立博物館＝小松市丸の内公園町
☎ 0761・22・0714 ＝月曜休館
北前船主屋敷・蔵六園＝加賀市橋立町
☎ 0761・75・2003
北前船の里資料館＝加賀市橋立町
☎ 0761・75・1250

【福井県】
みくに龍翔館＝坂井市三国町緑ヶ丘
☎ 0776・82・5666 ＝水曜休館
マチノクラ＝坂井市三国町北本町
☎ 0776・82・8392
旧岸名家＝坂井市三国町北本町
☎ 0776・82・0947 ＝水曜休館
三國神社＝坂井市三国町山王
☎ 0776・81・2514
瀧谷寺＝坂井市三国町滝谷
☎ 0776・82・0216
大野市歴史博物館＝大野市天神町
☎ 0779・65・5520
福井県陶芸館＝越前町小曽原
☎ 0778・32・2174 ＝月曜休館
北前船主の館・右近家＝南越前町河野
☎ 0778・48・2196 ＝水曜休館
敦賀市立博物館＝敦賀市相生町
☎ 0770・25・7033 ＝月曜休館
みなとつるが山車会館＝敦賀市相生町
☎ 0770・21・5570 ＝月曜休館
ヤマトタカハシ敦賀昆布館＝敦賀市坂下
☎ 0770・24・3070
福井県立若狭歴史博物館＝小浜市遠敷
☎ 0770・56・0525 ＝月曜休館
御食国若狭おばま食文化館＝小浜市川崎
☎ 0770・53・1000 ＝水曜休館

【京都府】
京都府立丹後郷土資料館＝宮津市国分
☎ 0772・27・0230 ＝月曜休館
旧三上家住宅＝宮津市河原
☎ 0772・22・7529
与謝野町生涯学習センター・知遊館＝与謝野町岩滝
☎ 0772・46・2451 ＝月曜休館

【島根県】
隠岐郷土館＝隠岐郡隠岐の島町郡
☎ 08512・5・2151
玉若酢命神社・億岐家宝物館＝隠岐郡隠岐の島町下西
☎ 08512・2・0571
海の関所資料館「浜延舎」＝松江市美保関町（連絡先は旅館「福間館」）
☎ 0852・73・0011
和鋼博物館＝安来市安来町
☎ 0854・23・2500 ＝水曜休館
菅谷たたら山内＝雲南市吉田町吉田
☎ 0854・74・0350 ＝月曜休館
鉄の歴史博物館＝雲南市吉田町吉田
☎ 0854・74・0043 ＝月曜休館
石見銀山資料館＝大田市大森町
☎ 0854・89・0846

【広島県】
因島水軍城＝尾道市因島中庄町
☎ 0845・24・0936
瀬戸田町歴史民俗資料館＝尾道市瀬戸田町（連絡先は市文化振興課）
☎ 0848・20・7514
椋の里ゆうあいランド・民俗資料館＝尾道市因島椋浦町
（連絡先は市教委地域教育課）
☎ 0845・26・6204
鞆の浦歴史民俗資料館＝福山市鞆町
☎ 0849・82・1121 ＝月曜休館

【岡山県】
玉島歴史民俗海洋資料館＝倉敷市玉島中央町
☎ 0865・22・7523 ＝月曜休館
むかし下津井回船問屋＝倉敷市下津井
☎ 0864・79・7890 ＝火曜休館
海遊文化館＝瀬戸内市牛窓町
☎ 0869・34・5505 ＝水曜休館

【兵庫県】
竹野温泉「誕生の湯」・北前船資料館＝豊岡市竹野町
☎ 0796・47・2020
赤穂市立歴史博物館＝赤穂市上仮屋
☎ 0791・43・4600 ＝水曜休館
旧坂越浦会所＝赤穂市坂越
☎ 0791・48・7755 ＝火曜休館
たつの市立室津海駅館＝たつの市御津町
☎ 079・324・0595
たつの市立室津民俗館＝たつの市御津町
☎ 079・324・0650 ＝月曜休館
淡路ワールドパークONOKORO＝淡路市塩田新島
☎ 0799・62・1192
高田屋顕彰館・歴史文化資料館＝【菜の花ホール】洲本市五色町都志
☎ 0799・33・0354
神戸海洋博物館＝神戸市中央区
☎ 078・327・8983 ＝月曜休館

著者：加藤貞仁　著作：北前船日本遺産推進協議会　協力：一般社団法人　北前船交流拡大機構
企画：（株）東映エージエンシー　編集・デザイン：EXAPIECO INC.　印刷製本：三映印刷株式会社

北海道小樽市
北海道石狩市
北海道函館市
北海道松前町
青森県野辺地町
青森県鰺ヶ沢町
青森県深浦町
秋田県能代市
秋田県男鹿市
秋田県秋田市
秋田県由利本荘市
秋田県にかほ市
山形県酒田市
新潟県新潟市
新潟県佐渡市
新潟県長岡市
新潟県上越市
富山県富山市
富山県高岡市
石川県輪島市
石川県小松市
石川県加賀市
福井県坂井市
福井県南越前町
福井県敦賀市
福井県小浜市
京都府宮津市
大阪府大阪市
兵庫県神戸市
兵庫県高砂市
兵庫県新温泉町
兵庫県赤穂市
兵庫県洲本市
鳥取県鳥取市
島根県浜田市
岡山県倉敷市
広島県尾道市
広島県呉市

Kitamae-bune
北前船寄港地・船主集落

38

www.kitamae-bune.com